

Endeavor

ST100

ユーザーズマニュアル

Windows Vista

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
--	-------------------------------------







障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。

⚠ 警告

 	<p>煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。</p> <p>すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p> <p>お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
 	<p>マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。 けがや感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>交流100V以外では使用しないでください。 指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
 	<p>通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>
 	<p>異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。 感電・火災の原因となります。</p> <p>すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。</p> <p>家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>
	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>











警告

	<p>増設作業などをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。 電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。</p>
	<p>付属のACアダプタの分解や改造をしないでください。 また、本機には、指定のACアダプタ以外は使用しないでください。 感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。 当社指定以外のACアダプタや分解、改造したACアダプタ（当社での修理対応は除く）は、安全性や製品に関する保証はできません。</p>
	<p>小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。 飲み込むと化学物質による被害の原因となります。 万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。</p>
	<p>小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。 口に入れたりすると窒息する危険があります。</p>
	<p>マウスボールは、絶対に投げないでください。 マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>

⚠ 注意

	小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
	湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。
	本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 <ul style="list-style-type: none">・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。・じゅうたんや布団の上などに設置しない。・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。
	連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。
	メモリの増設・交換などは本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、本機の内部が十分冷めてから行ってください。
	本機を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。
	付属のACアダプタは、本機以外には使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
	ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接接触しないでください。 低温火傷の原因になります。
	ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。 火傷・火災の危険があります。

⚠ 注意

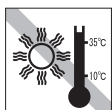
 	破損したACアダプタを使用しないでください。 火傷・火災の危険があります。
 	ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。
 	長時間または不自然な姿勢での本機の操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。
 	光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。 内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。
 	本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

本機（コンピュータ）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。

次の注意事項は、特に指定のない限り、本体およびACアダプタなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



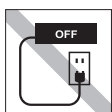
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



本機の上には重い物を載せないでください（本機が横置きの場合は、5.5kgまでのディスプレイを載せることができます）。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。汚れは、中性洗剤をしたらない程度に染み込ませた柔らかい布で軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



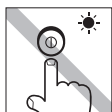
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



アクセスランプ点灯/点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ACアダプタはコードを持って抜き差ししないでください。コードの断線や接触不良の原因となります。



ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破壊しないでください。

▶記録メディア

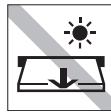
次のような取り扱いをすると、次の記録メディアに収録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

CD 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



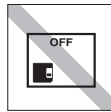
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯/点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



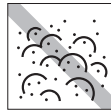
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。



シールを貼らないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



落としたり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



マウスボールを素手で触らないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。マウスボールにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。

目次

製品保護上の注意	7	キーの種類と役割	54
使用・保管時の注意	7	文字を入力するには	55
記録メディア	8	日本語を入力するには	55
マウス	9	キーロック表示ランプ	56
		Fnキーと組み合わせて使うキー	56
はじめに		マウスを使う	57
マニュアル中の表記	14	マウスの操作	57
本製品の仕様とカスタマイズ	18	マウスの設定変更	57
使い始めるまでの準備		HDDを使う	58
ご使用の前に	20	データのバックアップ	58
本機を使い始めるまでの手順	20	購入時のHDD領域	58
ご使用前の確認事項	21	HDDを分割して使用する	59
添付されているソフトウェア	22	光ディスクドライブを使う	60
本機でできること	24	使用可能な光ディスクメディア	60
各部の名称と働き	25	光ディスクメディアのセットと取り出し	61
本体前面	25	CDメディアの読み込み・再生	63
本体背面	26	DVDメディアの読み込み・再生	63
コンピュータの設置	27	光ディスクメディアへの書き込み	64
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	37	Nero 7 Essentialsの使い方	65
Windowsが使用できるようになるまでの作業	37	USB機器を使う	68
電源を入れる前に	38	USB機器の接続と取り外し	68
電源の入れ方とWindowsの起動	39	画面表示機能を使う	70
Windowsのセットアップ	40	表示に関する各種設定	70
セットアップ完了後の作業	43	表示できる解像度と表示色	71
Windows使用時の確認事項	44	表示装置に関する設定	72
音量の調節	44	サウンド機能を使う	73
インフォメーションメニューを使う	44	外部オーディオ機器などの接続	73
Windowsの修復	46	サウンドユーティリティを使う	75
復元ポイントを作成する	46	音量の調節	76
セキュリティ対策を行う	46	音声の再生・録音	77
画面表示が消えたときは（省電力機能）	46	ネットワーク機能を使う	78
フォルダメニューの表示	47	ネットワークの構築	78
ユーザーアカウントを作る	47	インターネットへの接続	78
ユーザーアカウント制御画面	48	WakeUp On LAN	79
本機の終了方法	49	リモートブート	79
通常の終了（スリープ）	49	インターネットに接続するには	80
電源を切る（シャットダウン）	50	接続するまでの流れ	80
再起動	51	接続方法の選択とプロバイダとの契約	80
ハンガアップしたときは	51	インターネットに接続する	81
		インターネットを使う上での注意	82
コンピュータの基本操作		インターネットや電子メールを利用する	82
キーボードを使う	54	インターネットを使用する際のセキュリティ対策	85
		Windows Update	85
		セキュリティソフトウェア	87
		ファイアウォール	88
		Windows Defender	89

フィッシング詐欺検出機能	90
電源設定を行う（省電力機能を使う）	91
電源プランの設定	91
本機を省電力状態にする	92
省電力状態に移行する方法	95
そのほかの機能	98
スピードステップ機能	98
セキュリティロックスロット	98

システムの拡張

拡張できる装置	100
作業時の注意	101
本体カバーの着脱	102
本体カバーの取り外し・取り付け	102
メモリの増設	104
メモリの仕様	104
メモリの取り付け・取り外し	105
メモリの増設・交換後の作業	107

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	110
BIOS Setupユーティリティの操作	111
BIOS Setupユーティリティの起動	111
BIOS Setupユーティリティの操作	112
設定値を元に戻すには	115
Passwordの設定	116
BIOS Setupユーティリティの終了	118
BIOS Setupユーティリティの設定項目	119
Mainメニュー画面	119
Advancedメニュー画面	120
Power メニュー画面	122
Bootメニュー画面	123
Exitメニュー画面	125
BIOSの設定値	125

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ...	128
再インストールが必要な場合	128
重要事項	128
ソフトウェアの再インストールを行う	129
必要なメディア	129
再インストールの概要	129
インストールの順番	130

インストール作業における確認事項	131
Windowsのインストール	133
Windows Vistaをインストールする ...	134
リカバリツールのインストール	137
本体ドライバのインストール	137
Adobe Readerのインストール	139
セキュリティソフトウェアのインストール ...	140
マニュアルびゅうのインストール	140
Nero 7 Essentialsのインストール	141
WinDVDのインストール	141
JWord Pluginのインストール	142
gooスティックのインストール	142
そのほかのインストール	143
再インストール後の作業	144

こんなときは

トラブルが発生したら	146
困ったときに	147
コンピュータ本体の不具合（起動時） ...	148
コンピュータ本体の不具合	156
メモリの不具合	158
記憶装置の不具合	159
入力装置の不具合	163
表示装置の不具合	164
サウンドの不具合	166
ソフトウェアの不具合	167
ネットワーク、インターネットの不具合 ...	170
システム診断ツールを使う	171
システム診断を実行する	171
トラブル時に役立つ機能	172
セーフモードでの起動	172
システムの復元	172
Windows回復環境（Windows RE）を使う ...	174
警告メッセージが表示されたら	177

付録

お手入れ	180
本機のお手入れ	180
マウスのお手入れ	180
データのバックアップ	182
バックアップ方法	182
バックアップCDの作成	183
バックアップCDの作成方法	183
バックアップCDからインストールを行うには ...	184

電子マニュアルのダウンロード	185	Cドライブ以外のドライブを削除する ...	194
ダウンロードできるそのほかのデータ ...	185	リチウム電池の交換	195
セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化 ...	186	CMOS RAMの初期化	198
HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成	187	HDDのデータを消去する	200
HDD領域を分割して使用する (概要) ...	187	機能仕様一覧	202
Cドライブを分割・変更する	188	索引	203
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	191		

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	14
「本製品の仕様とカスタマイズ」	18

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。



1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は $N_{み}$ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディア
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows Vista	Windows Vista™ Ultimate
	Windows Vista™ Business
	Windows Vista™ Home Premium
	Windows Vista™ Home Basic

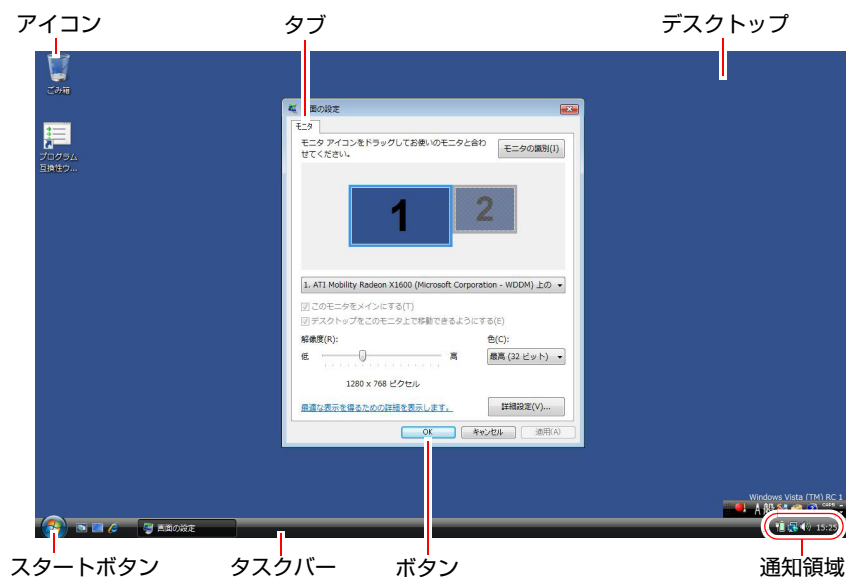
HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1KByte=1000Byte として記載しています。

Windows Vistaの画面表示に関する記載方法

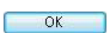
デスクトップ画面

本書では、Windows Vistaの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

本書では、Windows Vistaの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

● 記載例

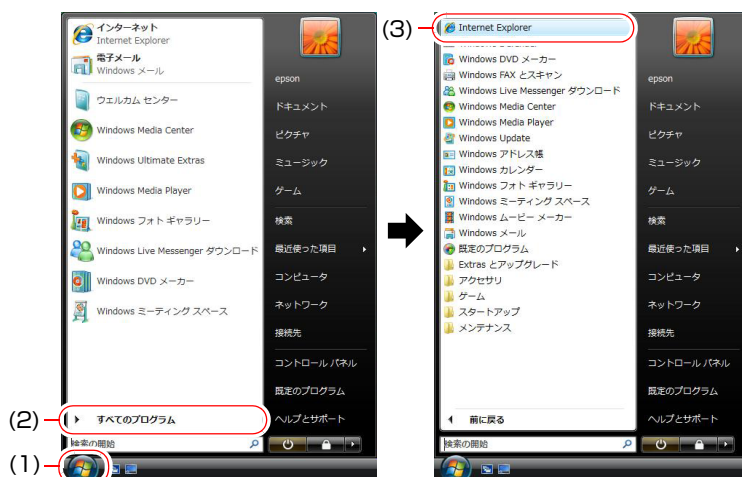
[スタート] – [すべてのプログラム] – [Internet Explorer] をクリックします。

● 実際の操作

(1) [スタート] をクリックします。

(2) 表示されたメニューから [すべてのプログラム] をクリックします。

(3) 表示されたメニューから [Internet Explorer] をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などについては、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルをご覧ください。

メモリ	: 1枚
HDD	: 1台
光ディスクドライブ	: 1台
ディスプレイ機能	: メインボードの機能を使用
ネットワーク機能	: メインボードの機能を使用
サウンド機能	: メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 106 PS/2 コンパクトキーボード
マウス	: ホイール付 PS/2 マウス

製品仕様と添付されるマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、本機の『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されます。お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅう」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。


「ご使用前に」	20
「添付されているソフトウェア」	22
「本機でできること」	24
「各部の名称と働き」	25
「コンピュータの設置」	27
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	37
「Windows使用時の確認事項」	44
「本機の終了方法」	49

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順


購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。


梱包品に不足や不良がないかを確認する


 『梱包品の確認』(別冊)





本機を使用する前に必要な情報を確認する


 p.2 「安全にお使いいただくために」

 p.7 「製品保護上の注意」

 p.14 「マニュアル中の表記」


 p.18 「本製品の仕様とカスタマイズ」

 p.20 「ご使用前に」

 p.25 「各部の名称と働き」




コンピュータを設置し、各機器の接続を行う

 p.27 「コンピュータの設置」



電源を入れ、Windowsをセットアップする

 p.37 「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」



使用開始！

▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

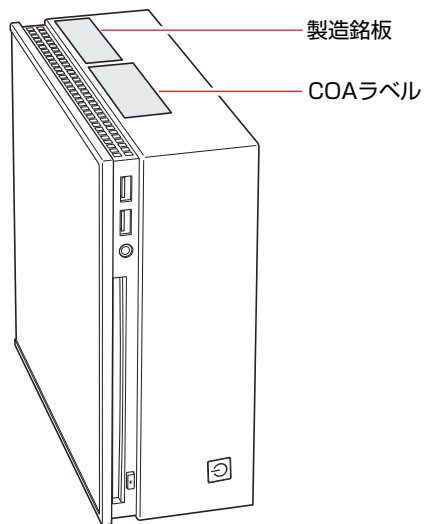
- 製造銘板

製造銘板には、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。製造銘板に記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Windows Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内




『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア




購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。


表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のDVDまたはCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。  p.59 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。


本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows Vista 本機のパレーティングシステム (OS) です。	 Windows VistaリカバリDVD
<ul style="list-style-type: none">● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリツールCD
<ul style="list-style-type: none">● ビデオドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。● サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
<ul style="list-style-type: none">● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。● マニュアルびゅーわ 本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。	 消去禁止領域

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Nero 7 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● WinDVD (DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 	

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。

 p.43 「セットアップ完了後の作業」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	

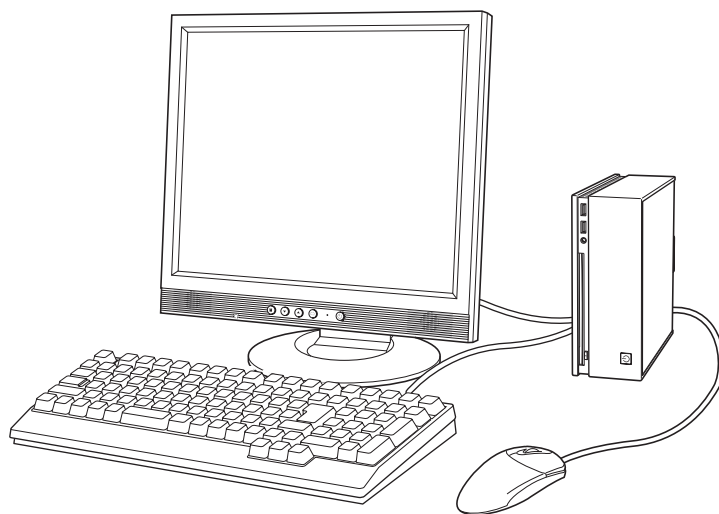
その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。 	 リカバリツールCD

本機でできること

本機は省スペースに適した小型のコンピュータです。
本機では、次のような操作ができます。



インターネットやメールを利用する

 p.82

光ディスクを再生する、光ディスク
にデータを保存する（オプション）

 p.60

ネットワークに接続する

 p.78

USB機器を接続して使う

 p.68


画面表示を調節する

 p.70

サウンドの設定をする

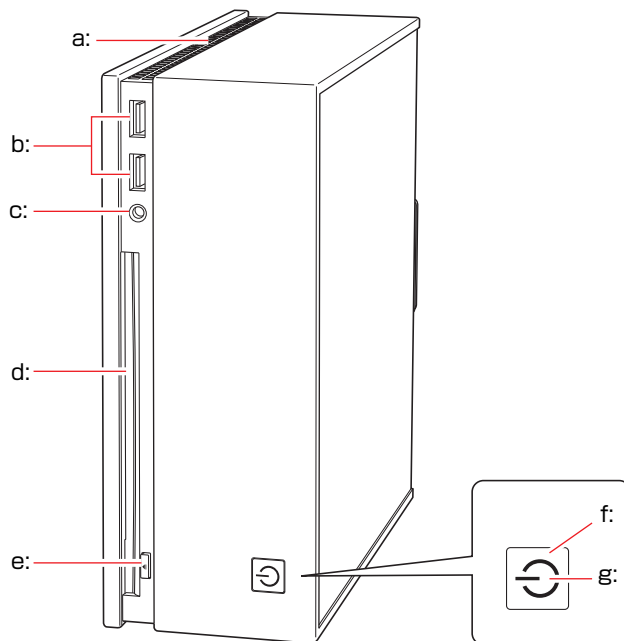
 p.73

メモリを増設・交換する

 p.104

各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 通風孔

本機の内部で発生する熱を逃がします。反対側の面にもあります。

b: USBコネクタ

USB2.0対応の周辺機器を接続します。

c: ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンを接続します。

d: 光ディスクドライブ

CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います。

e: ドライブイジェクトボタン

光ディスクメディアの出し入れを行います。

f: 電源スイッチ

本機の電源の入/切を行います。また、スリープ状態や休止状態からの復帰にも使用します。

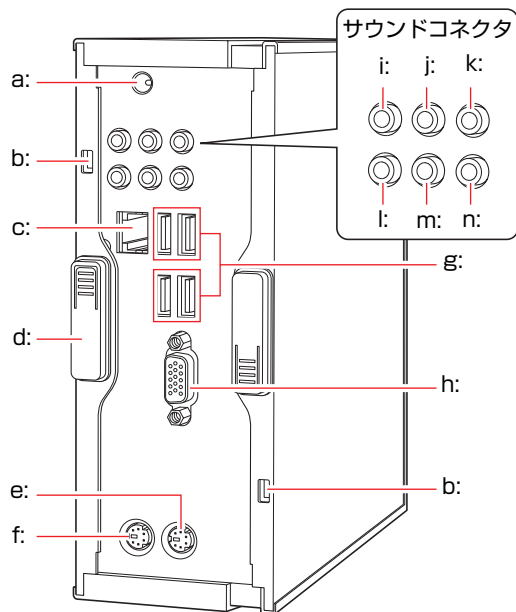
g: 電源ランプ/アクセスランプ


電源を入れると青色に点灯し、スリープ状態時は青色に点滅します(購入時の設定)。HDDや光ディスクドライブへのアクセス中は紫色に点灯します。



アクセスランプが点灯しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面




a: ACアダプタコネクタ 

付属のACアダプタを接続します。

b: セキュリティロックスロット


市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤ）を取り付けます。

c: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

d: ラッチ


本体カバーを固定します。

e: キーボードコネクタ 


キーボードを接続します。

f: マウスコネクタ 

マウスを接続します。

g: USBコネクタ 


USB2.0対応の周辺機器を接続します。

h: VGAコネクタ 


アナログ方式のディスプレイとVGA（アナログ）ケーブルで接続します。

i: ライン入力コネクタ 


オーディオ機器と接続して音声を入力します。

j: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ 


フロントスピーカやヘッドホンなどと接続して音声を出力します。通常、スピーカはこのコネクタに接続します。

k: マイク入力コネクタ 


マイクと接続して音声を入力します。

l: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ 

センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。

m: リアスピーカ出力コネクタ 

リアスピーカと接続して音声を出力します。

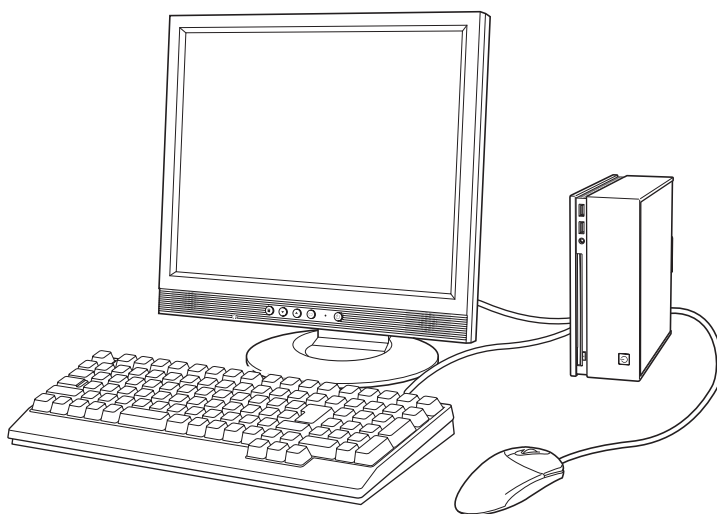
n: サイドスピーカ出力コネクタ 

サイドスピーカと接続して音声を出力します。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器の接続は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。




1

設置における注意



注意

- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



- めれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。
- ACアダプタの分解や改造をしないでください。また、本機には、指定のACアダプタ以外は使用しないでください。感電、火傷や、化学物質による被害の原因となります。
当社指定以外のACアダプタ、または分解、改造したACアダプタ（当社での修理を除く）は、安全性や製品に関する保証はできません。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると思われ大音量により聴覚障害の原因となります。
- 付属のACアダプタは本機以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。
- ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。
- 破損したACアダプタを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。

設置

1 設置準備を行います。

(1) 縦置きにするか横置きにするかを決め、底面を確認します。

<縦置きにする場合>

通風孔のある面のどちらかを底面にしてください。前面、背面を底面にしないでください。

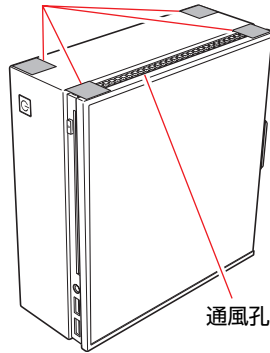
<横置きにする場合>

電源スイッチに近いほうの面を底面にしてください。

(2) 必要に応じて滑り止めを貼ります。

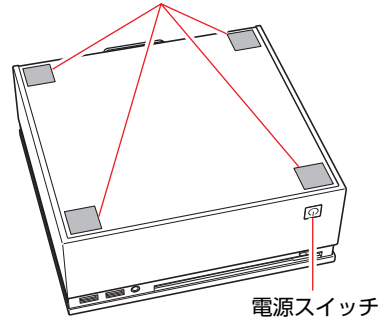
底面になる部分に添付の滑り止めを貼り付けます。

滑り止め



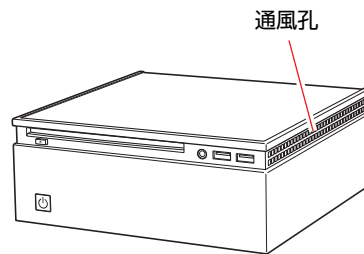
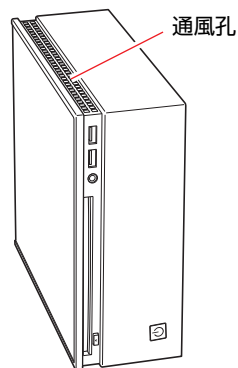
<縦置きにする場合>

滑り止め



<横置きにする場合>

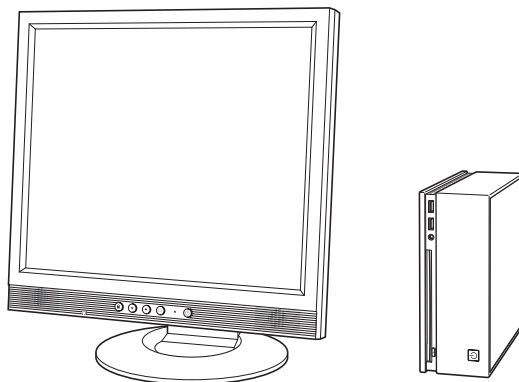
(3) 底面になる面を下にして置きます。



制限

- 本機の上に載せられるディスプレイの重さは5.5kgまでです。5.5kgより重いディスプレイは載せないでください。
- ディスプレイのスタンド部分が本機の上に収まらない場合やディスプレイが不安定になる場合は、ディスプレイを本機の上に載せないでください。

- 2** 本機とディスプレイを設置場所(机などの丈夫で水平な台の上)に置きます。
設置した際に通風孔をふさがないようにしてください。

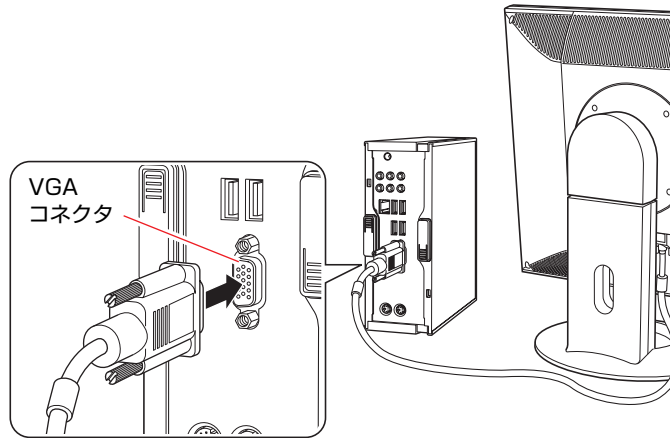


以降の各ケーブルを接続する手順は、電源スイッチ側を下にして、本機を縦置きにした状態で説明しています。そのほかの設置方法の場合も、手順は同様です。

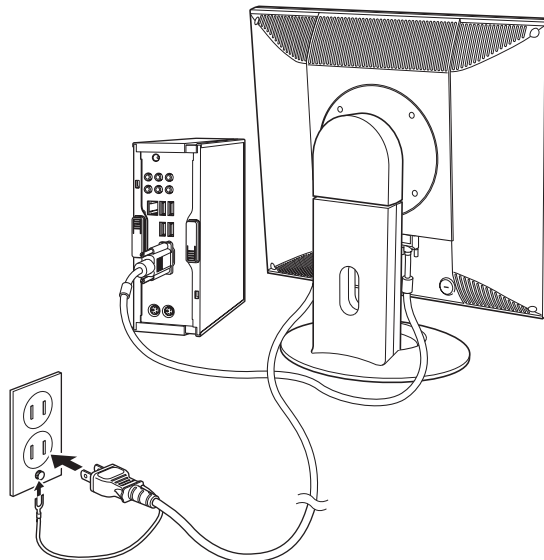
ディスプレイの接続

ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- 3 ディスプレイのVGAケーブルを本機背面のVGAコネクタ(□)に接続します。



- 4 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



マウスの接続


5 マウスを接続します。

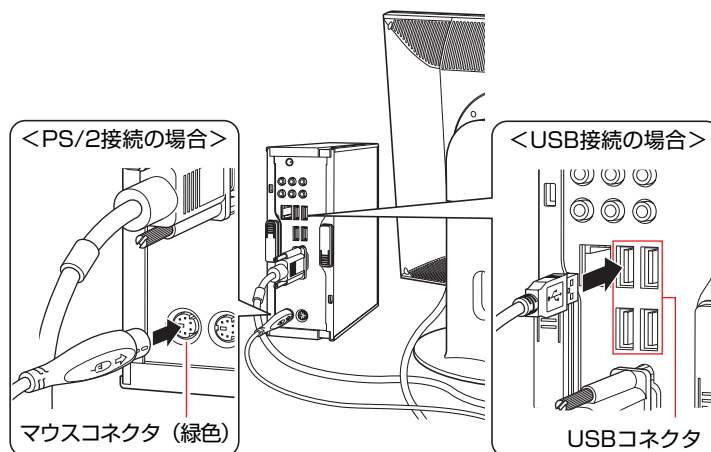
ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるマウスにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

<PS/2接続の場合>

マウスケーブルのコンネクタを本機背面のマウスコンネクタ（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコンネクタを本体背面のUSBコンネクタ（)に接続します。4つのUSBコンネクタは同じ機能ですので、どのコンネクタを使用しても構いません。



キーボードの接続


6 キーボードを接続します。

ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるキーボードにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

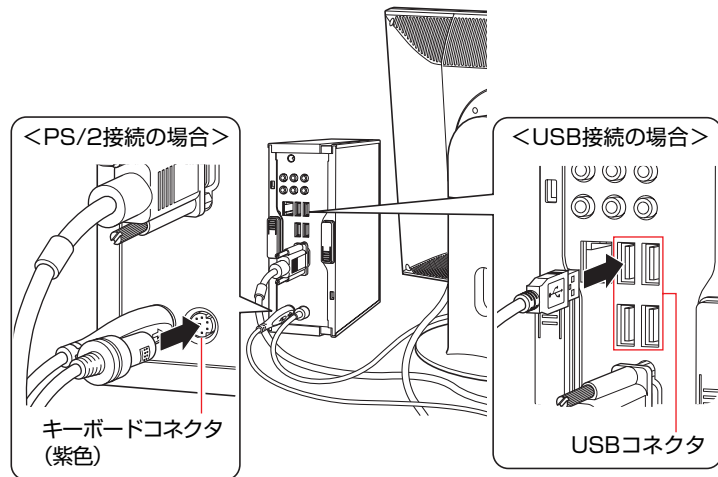
<PS/2接続の場合>

キーボードケーブルのコンネクタを本機背面のキーボードコンネクタ（紫色）に接続します。

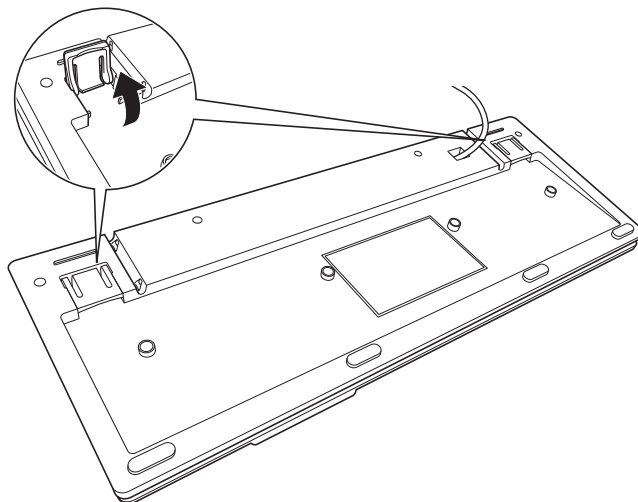
<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコンネクタを本体背面のUSBコンネクタ（)に接続します。

4つのUSBコンネクタは同じ機能ですので、どのコンネクタを使用しても構いません。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



スピーカの接続

本機にスピーカは搭載されていません。音声を出力したい場合は、スピーカやスピーカが搭載されているディスプレイなどを接続してください。


ここでは一般的な接続方法を説明します。

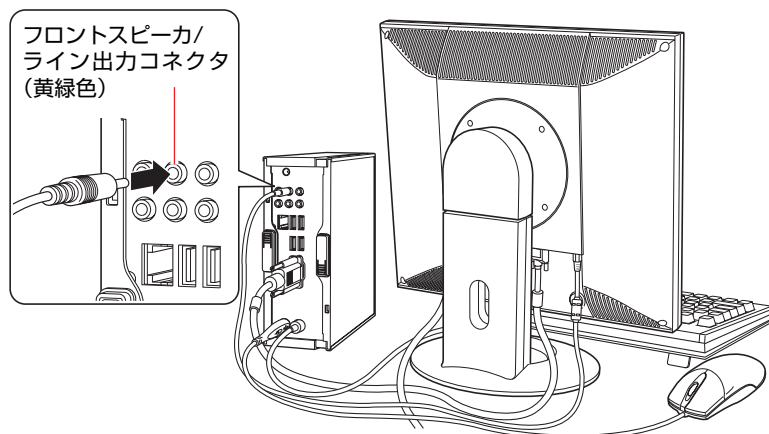
詳しくはスピーカやディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

7 ディスプレイやスピーカのオーディオケーブルを本機背面のサウンドコネクタに接続します。

オーディオケーブルが1本の場合は、フロントスピーカ/ライン出力コネクタ(黄緑色)に接続します。スピーカにより、接続するケーブルの数は異なります。

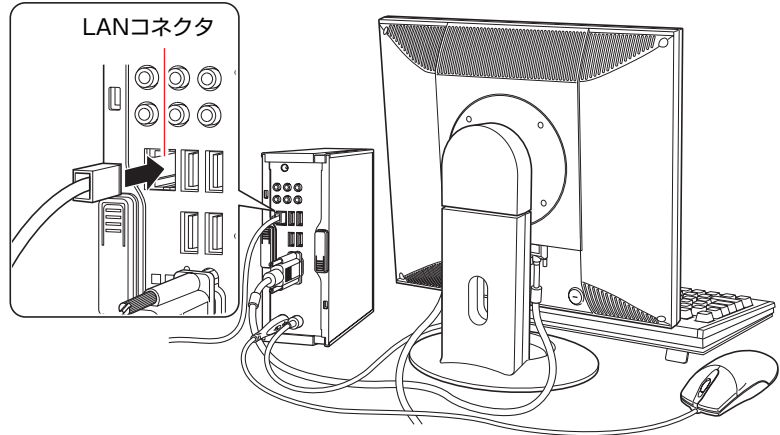
スピーカの種類の設定をWindowsのセットアップ後に行ってください。

 p.76 「スピーカの種類の設定」



ネットワークへの接続

- 8** ネットワークに接続できる環境で、ネットワーク機能を使用する場合は、市販のLANケーブルを本機背面のLANコネクタ（品）に接続します。インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



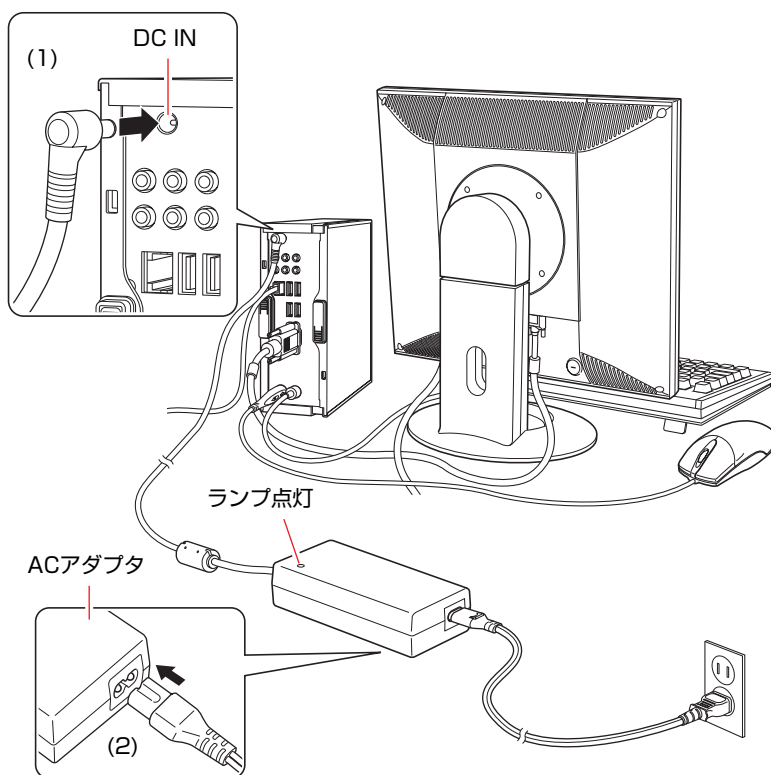
ACアダプタの接続

9 ACアダプタをコンピュータと家庭用電源コンセントに接続します。

(1) ACアダプタのプラグ部を本機背面のACアダプタコネクタ ($\frac{DC}{12V}$) に接続します。

プラグ端子部が見えなくなり、「カチッ」と音がするまでしっかりと押し込みます。

(2) 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。



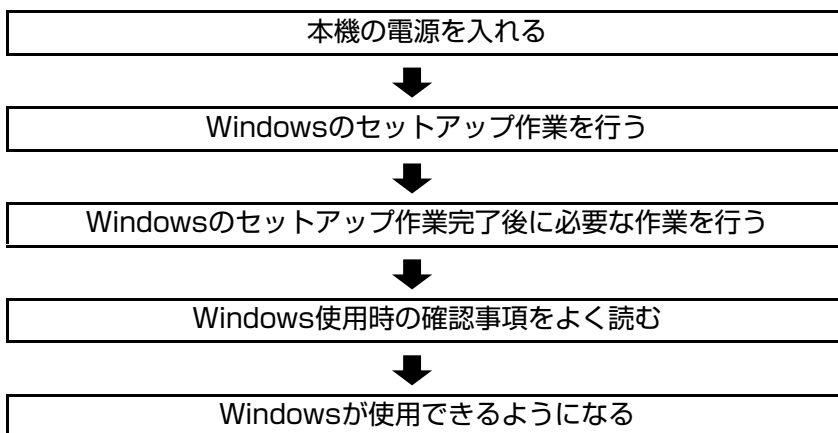
これで本機の設置は完了です。
続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。 p.38 「電源を入れる前に」以降の手順に従って作業を行ってください。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

- マウスポインタを動かす

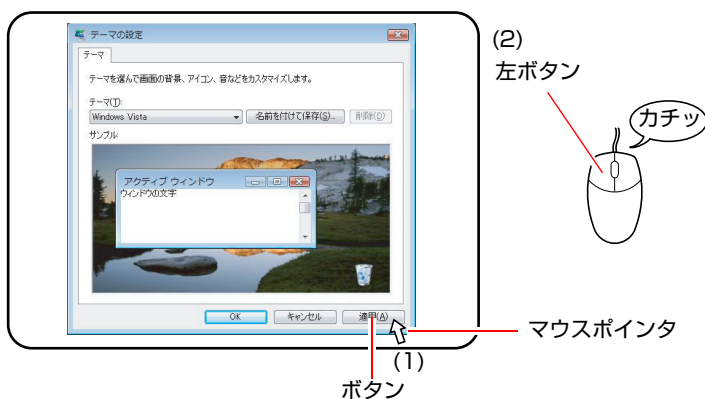
マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。



- ボタンをクリックする

- (1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。
この動作を「クリック」と言います。

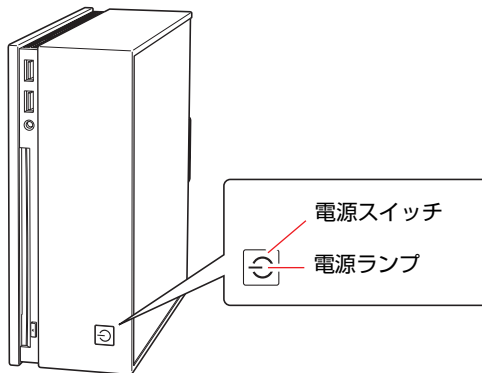
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1 ディスプレイやスピーカなどの電源を入れます。
- 2 電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。
電源ランプ (⦿) が点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。



- 3 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
画面に何も表示されない場合はディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続いてWindowsのセットアップを行います。

 p.40 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な項目について記載しています。入力の際に参考にしてください。

- ユーザー名

セットアップ中に入力するユーザー名(アカウント)は管理者(Administrator)となります。

- パスワード

パスワードを設定すると、設定したユーザー名(アカウント)でログオン時にパスワードの入力が要求されます。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

- コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワーク(家庭内LANや社内LAN)に接続して使用する場合に必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

- ネットワークに接続しない場合

セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

- ネットワークに接続する場合

ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更します。

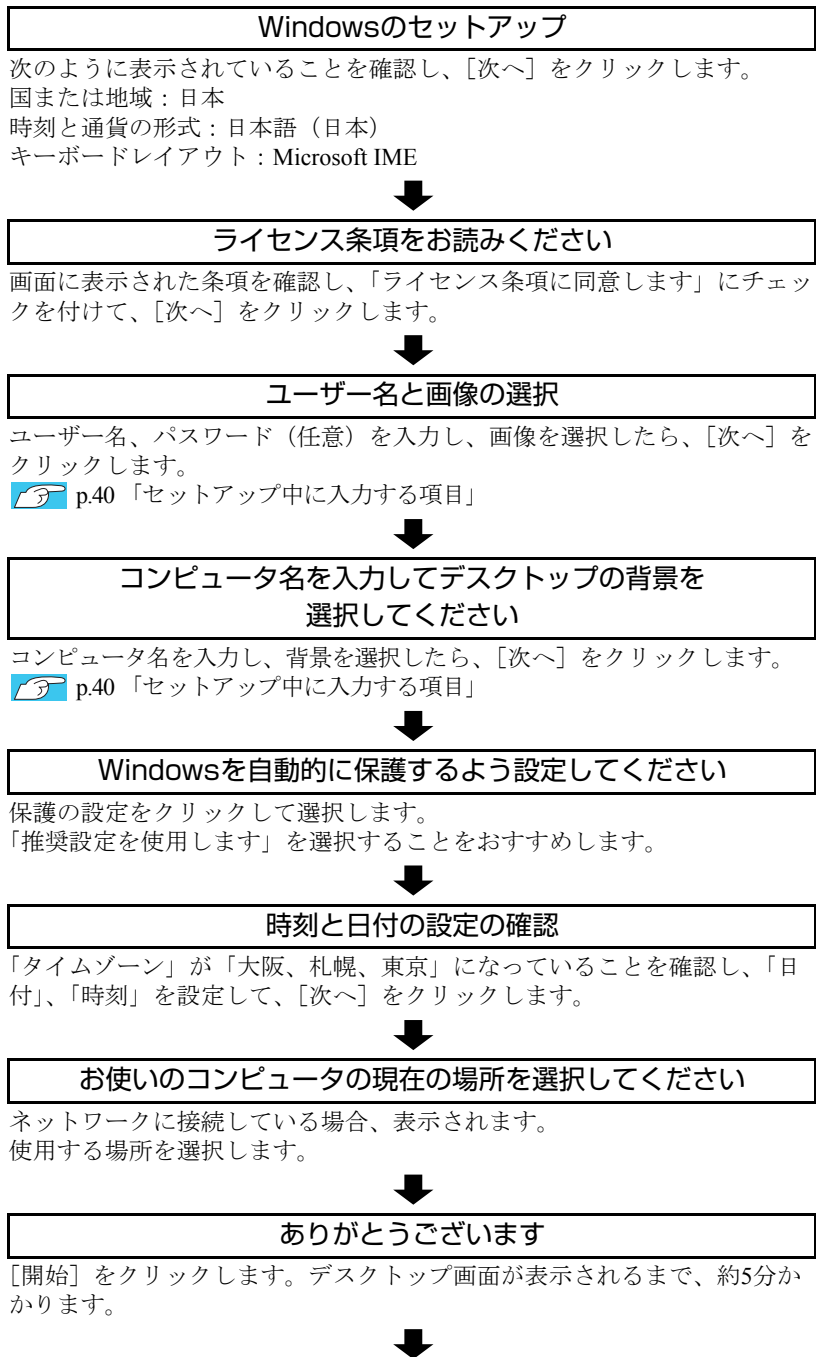


管理者(Administrator)について

管理者(Administrator)のアカウントでログオンすると、すべての機能にアクセスすることができます。本機の設定を変更するときやWindowsを再インストールする場合などには、管理者(Administrator)のアカウントでログオンし、作業を行います。

Windows Vistaのセットアップ

電源を入れたあと、しばらくすると自動的に「Windows Vistaセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。セットアップの流れは、次のとおりです。



デスクトップ画面の表示


Windows Vistaのデスクトップ画面が表示されます。

パスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力すると、デスクトップ画面が表示されます。



<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これでWindows Vistaのセットアップは完了です。

続けて、 p.43 「セットアップ完了後の作業」を行います。

参考

ライセンス認証について

購入時に本機にインストールされているWindows Vistaおよび「Windows VistaリカバリDVD」より再インストールを行ったWindows Vistaは、ライセンス認証を行う必要はありません。

▶セッティング完了後の作業

Windows のセッティングが完了したら、次の作業を行います。

初期設定ツール

Windowsのセッティングが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行うためのツールです。画面に従って設定を行ってください。

セキュリティソフトウェアのインストール

購入時、本機にセキュリティソフトウェアはインストールされていません。初期設定ツールの「セキュリティ設定」画面の指示に従ってインストールしてください。

<通常の場合>

通常は、本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。インストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）をご覧ください。


<セキュリティソフトウェアをオプション購入された場合>

本機購入時にオプション選択でセキュリティソフトウェアの製品版を購入された場合は、「セキュリティ設定」画面で製品版を選択してインストールしてください。

セキュリティソフトウェアによっては、初期設定ツールからインストールができない場合があります。初期設定ツールの終了後、セキュリティソフトウェアに添付のCDからインストールしてください。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

 p.78 「ネットワーク機能を使う」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用前に次の事項を確認してください。

Windowsの使用方法は、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。

 p.76 「音量の調節」

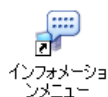
▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は、次のとおりです。

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする。



- スタートメニューから起動する。

インフォメーションメニューが起動すると次の画面が表示されます。



インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

- マニュアルびゅーわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。



「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとする、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、このコンピュータにアクセスする可能性のあるスクリプトやActiveXコントロールを実行しないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

- とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。



p.146 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポートページ (Web)

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。



p.185 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索 (Web)

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。


- **トラブルが解決しなかったら**

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合をご覧ください。

▶ Windowsの修復

本機のHDDには「Windows回復環境」が設定されています。これは、Windowsが起動できないなどの不具合を修復する機能です。


Windowsが起動できないときなどは実行してみてください。

 p.174 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶ 復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態を戻すことができます。


復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.173 「復元ポイントを手動で作成する」

▶ セキュリティ対策を行う


本機には、本機を外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.85 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶ 画面表示が消えたときは（省電力機能）

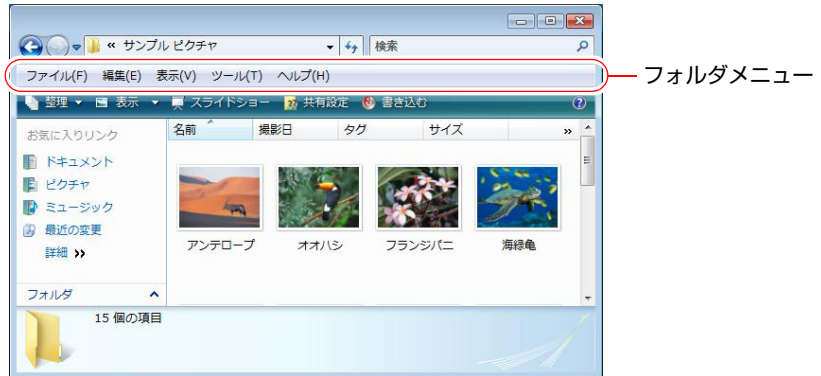
本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるよう、設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが点滅している場合は、「スリープ状態」になっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.97 「省電力状態からの復帰方法」

▶フォルダメニューの表示

Windows Vistaでは、「ファイル」や「ツール」などのフォルダメニューが標準では表示されません。

フォルダメニューを表示したい場合は、**[Alt]**を押します。もう一度**[Alt]**を押すと、フォルダメニューは表示されなくなります。



常にフォルダメニューを表示する

常にフォルダメニューを表示したい場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」 - 「フォルダオプション」 - 「表示」タブ - 「常にメニューを表示する」にチェックを付けます。

▶ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成します。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ユーザーアカウント」 - 「ユーザーアカウント」 - 「別のアカウントの管理」 - 「新しいアカウントの作成」

アカウント権限は、ユーザーに応じて設定してください。

ユーザーアカウントの種類

ユーザーアカウントの種類には、次の2つがあります。

- 管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバ、ソフトウェアのインストールをすることができます。

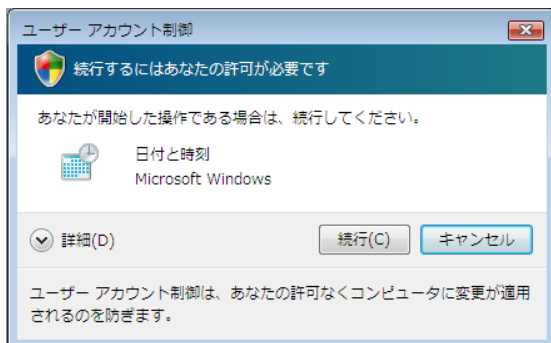
購入時やリカバリ時のWindowsのセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

- 標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバ、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者パスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

▶ユーザーアカウント制御画面

が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようとする、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、アカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントでログオンした状態を前提に記載しています。

本機の終了方法


ここでは、本機の終了方法や再起動方法について説明します。
本機の終了方法には次の2つがあります。

● 通常の終了（スリープ）

通常は、本機を「スリープ状態」にして終了します。


 p.49 「通常の終了（スリープ）」

スリープ状態にすると、作業内容がメモリに保存され、画面表示が消えて本機は低電力の状態になります。スリープ状態からは、数秒で通常の状態に復帰することができます。

スリープ状態についての詳しい説明は、 p.93 「省電力状態の種類」をご覧ください。

● 電源を切る（シャットダウン）

次のような場合は、本機の電源を切って終了します。

 p.50 「電源を切る（シャットダウン）」

- 完全に電源を切りたいとき
- 数日使用しないとき
- 周辺機器、メモリやリチウム電池などの取り付け、取り外しをするとき

▶ 通常の終了（スリープ）

本機をスリープ状態にして終了する方法とスリープ状態から復帰させる方法について説明します。

終了方法

本機をスリープ状態にして終了する方法は、次のとおりです。

1 [スタート] () - [⏻] をクリックします。

本機が「スリープ状態」になります。画面表示が消え、電源ランプが点滅します。

参考

ほかの方法でスリープ状態にする

次の方法でも、本機をスリープ状態にすることができます。

- [スタート] - [▶] - 「スリープ」をクリックする

復帰方法

本機をスリープ状態から復帰させる方法は、次のとおりです。



復帰の際、周辺機器はスリープ状態に入る前と同じ状態にしてください。スリープ中に周辺機器を取り外すなどして状態が異なると、正常に復帰できない場合があります。

- 1 電源ランプ (⏻) が点滅していることを確認します。
電源ランプが点灯している場合は、マウスやキーボードを操作します。
- 2 電源スイッチ (⏻) を押します。
本機が通常状態に復帰します。

▶電源を切る (シャットダウン)

本機の電源の切り方と入れ方について説明します。

電源の切り方

本機の電源を切る (シャットダウンする) 方法は、次のとおりです。



- 電源を切って、もう一度入れなおす場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

- 1 [スタート] - [▶] - 「シャットダウン」をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 2 ディスプレイなど接続している周辺機器の電源を切ります。

シャットダウン時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と表示されます。この場合は [いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってからシャットダウンをしてください。

電源の入れ方

シャットダウン状態から本機の電源を入れる方法は、次のとおりです。



- 周辺機器の電源をいつ入れるか周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。電源を入れるタイミングがコンピュータより先か後かは、周辺機器により決まっています。
- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続している場合は、外した状態で電源を入れてください。接続した状態で電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

1 電源スイッチ (⏻) を押します。

本機の電源が入り、Windowsが起動します。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動方法

本機の再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

アプリケーションやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。ハングアップした場合は、アプリケーションの強制終了を行います。アプリケーションの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

アプリケーションの強制終了

アプリケーションの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャの起動」をクリックします。
「Windowsタスクマネージャ」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているアプリケーションを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 4** 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「[すぐに終了]」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
これで電源が切れます。

第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

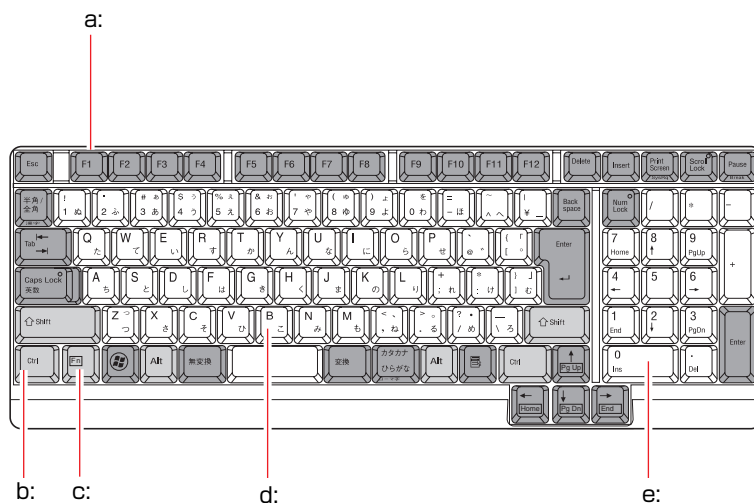
「キーボードを使う」	54
「マウスを使う」	57
「HDDを使う」	58
「光ディスクドライブを使う」	60
「USB機器を使う」	68
「画面表示機能を使う」	70
「サウンド機能を使う」	73
「ネットワーク機能を使う」	78
「インターネットに接続するには」	80
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	85
「電源設定を行う（省電力機能を使う）」	91
「その他の機能」	98

キーボードを使う

ここでは、日本語対応106 PS/2コンパクトキーボードについて説明します。キーボードの接続方法は、[p.27](#) 「コンピュータの設置」をご覧ください。購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードにマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割はソフトウェアによって異なります。具体的な働きなどについては使用するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

b: 制御キー

文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

c: Fnキー

制御キーの1つです。


[p.56](#) 「Fnキーと組み合わせて使うキー」

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。

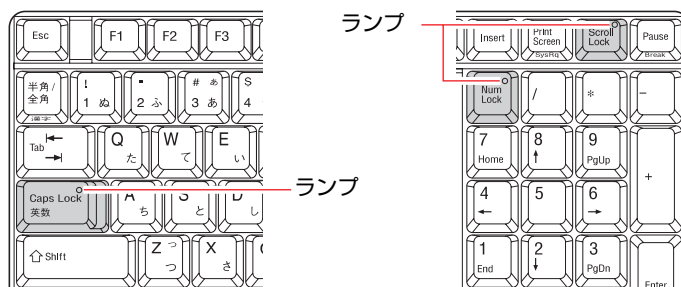
ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock 上にはキーロック表示ランプがあります。



ランプはキーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	Num Lock を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの ← ↑ Home などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	Shift + Caps Lock を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	Scroll Lock を押します。


▶Fnキーと組み合わせて使うキー

次のキーは、Fn と組み合わせると、次のように使用することができます。

Fn + PgUp	PgUp (Page Up) の役割をします。
Fn + Home	Home (ページの先頭へ移動) の役割をします。
Fn + PgDn	PgDn (Page Down) の役割をします。
Fn + End	End (ページの最後へ移動) の役割をします。

マウスを使う

ここでは、ホイール付PS/2マウスについて説明します。

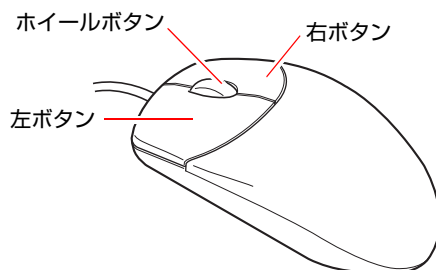
マウスの接続方法は、 p.27 「コンピュータの設置」をご覧ください。

購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



- でこぼこのある場所では使用しないでください。マウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせ、左ボタンを押したままの状態をマウスを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。 ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所から実行します。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

詳しくは、ヘルプをご覧ください。

HDDを使う


本機には、Serial ATA（以降、S-ATA）仕様のHDDが搭載されています。HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。



- 誤った操作で重要なデータが破損しないように次の点に注意してください。
 - ・ HDDを分解しないでください。
 - ・ HDD アクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破壊されるおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.182 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	残り

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

ドライブ（領域）	容量
消去禁止領域	約3GB*
Cドライブ	購入時に選択された容量
Dドライブ	残り

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。


消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。


この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」内の本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

 p.183 「バックアップCDの作成」

Windows REについての詳細は、次をご覧ください。

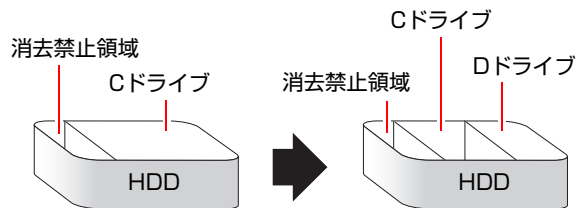
 p.174 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」


▶HDDを分割して使用する

1台のHDDは、いくつか分割してそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。

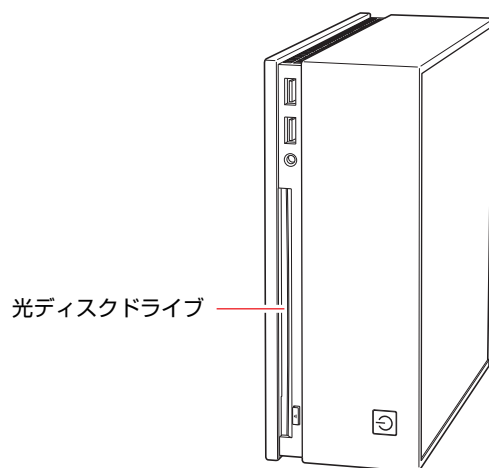


Cドライブを分割する場合は、Windowsの再インストールが必要です。詳しくは、 p.188 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブを使う

本機には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



注意

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアは使用しないでください。内部で飛び散って、故障したり、メディア取り出し時にけがをしたりする危険があります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅうわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

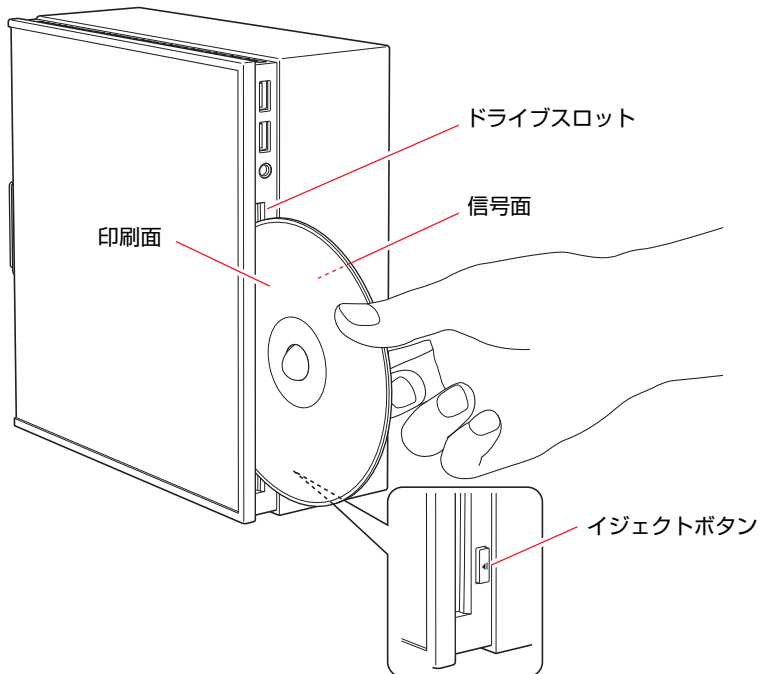
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



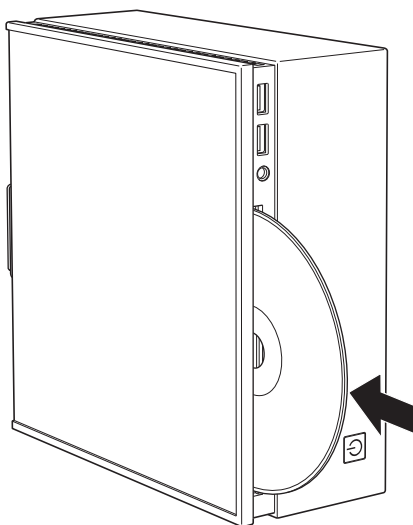
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、再起動しないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、8cm のメディアは使用できません。また、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 光ディスクメディアの信号面（文字などが印刷されていない面）をイジェクトボタン側に向け、ドライブスロットにセットします。

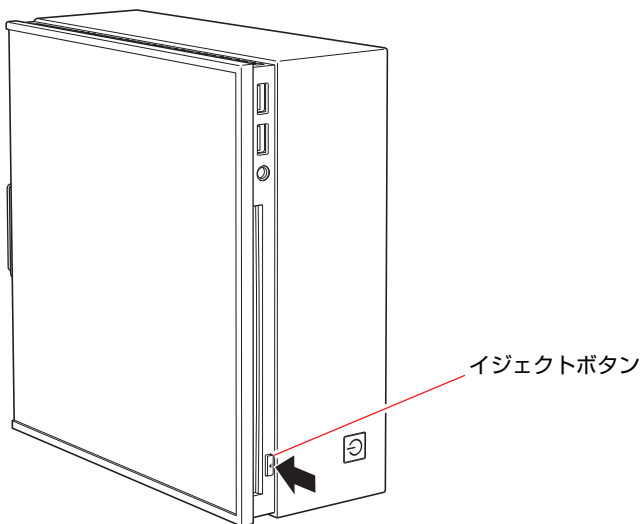


- 2** 光ディスクメディアをドライブスロットに押し込みます。

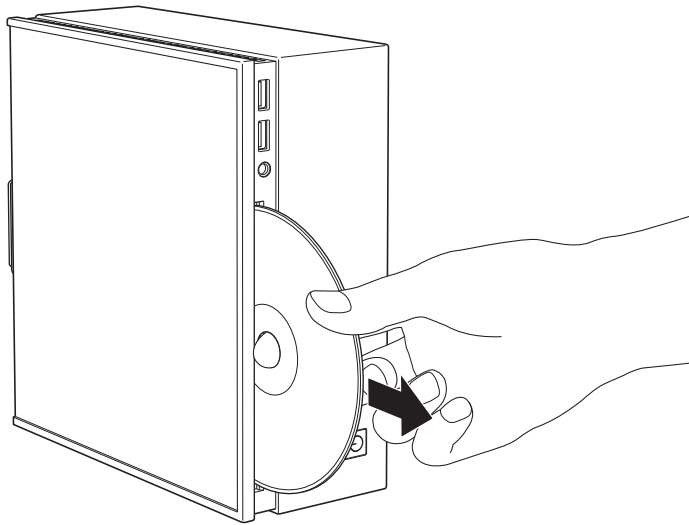


取り出し方法

- 1** イジェクトボタンを押します。
光ディスクメディアが出ます。



2 光ディスクメディアを取り出します。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

DVD再生機能のあるドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、ビデオ編集ソフトで作成したDVDなどの再生ができます。再生には、DVD VIDEO再生のためのソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には、「WinDVD」を使用します。

WinDVDは、次の場所から起動します。

[スタート] – [すべてのプログラム] – [Inter Video WinDVD] – [Inter Video WinDVD for EPSON]

WinDVDの詳細な使用法は、WinDVDのヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO再生時の制限

WinDVDでDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数の設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。



p.70 「表示に関する各種設定」



p.72 「リフレッシュレートの設定」

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。

書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。

[インフォメーションメニュー] – [マニュアルびゅうわ] – [光ディスクドライブPDFマニュアル]



作成した DVD VIDEO は、市販の DVD プレイヤーで再生できますが、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。




p.65 「Nero 7 Essentialsの使い方」

書き込み時の注意

- 省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態への移行を無効にしてください。

 p.95 「省電力状態に移行する方法」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

- 速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、光ディスクドライブのPDFマニュアルで確認できます。

▶ Nero 7 Essentialsの使い方

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero 7 Essentials」と Windows Vista 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳しい使用方は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。パケットライトでメディアに書き込むには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。

InCDの詳しい使用方は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「InCDユーザーマニュアル」



- 「InCD」で使用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは「Nero 7 Essentials」で書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレード

本機にインストールされている「Nero 7 Essentials」は、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。



USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



- USBフラッシュメモリやUSB HDDなどのUSB記憶装置を接続した状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。電源を入れる際は、USB記憶装置を抜いた状態で行い、Windows起動後に接続してください。
- 本機の電源コードが接続されている状態では、USBポートに5Vの電力が常に供給されています。お使いのUSB機器などによっては、本機の電源を切った状態でも、USB機器のランプが光り続けます。これは、お使いのUSB機器の仕様で、故障ではありません。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

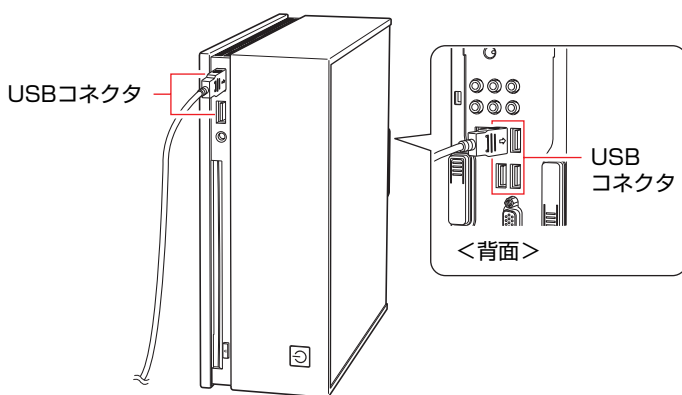
▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ (⇄) に接続します。



2 USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



<取り外しアイコン>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。



接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で「プロパティ」をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

●USB機器の終了処理をして取り外す

「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1 開いているファイルを閉じます。

ファイルを閉じないと、終了処理ができません。

2 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。



<取り外しアイコン>

3 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器)・・・を安全に取り外します」を選択します。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (E:) を安全に取り外します

4 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックし、USB機器を本機から取り外します。

画面表示機能を使う


本機のメインボード上には画面表示機能が搭載されています。

ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.172 「セーフモードでの起動」

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は「画面の設定」の「モニタ」タブで行います。

「画面の設定」は次の場所にあります。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップのカスタマイズ」
- 「個人設定」 - 「画面の設定」



The screenshot shows the 'Screen Settings' window with the 'Monitors' tab selected. A large number '1' is displayed in the center of the monitor area. Below the monitor area, the text 'ATI RADEON XPRESS 200M Series 上の汎用 PnP モニタ' is shown. The 'Resolution (R):' section has a slider set to 'High' with '1280 x 1024 ピクセル' displayed below it. The 'Color (C):' section has a dropdown menu set to 'Highest (32-bit)'. A 'Detailed Settings (M)...' button is highlighted with a red box. Red lines with text labels point to these elements: 'ATI RADEON XPRESS 200M Series 上の汎用 PnP モニタ' is labeled '使用しているディスプレイの名称'; 'Resolution (R):' is labeled '解像度を設定します。'; 'Color (C):' is labeled '色を設定します。'; and 'Detailed Settings (M)...' is labeled '表示装置に関する設定を行います。'. At the bottom of the window are 'OK', 'キャンセル', and '適用 (A)' buttons.

表示できる解像度や色数は、お使いのビデオボードや、接続しているディスプレイによって異なります。詳しくは、ビデオボードやディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示できる解像度と表示色



解像度や表示色が高いと、「WinDVD」で DVD VIDEO を再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。実際に表示できる解像度は、接続しているディスプレイによって異なります。

● 解像度 ピクセル (横×縦)

800×600

1024×768

1280×768 (ワイドディスプレイ 接続時のみ)

1280×1024

1600×1200

● 表示色

中 (16ビット) / 最高 (32ビット)

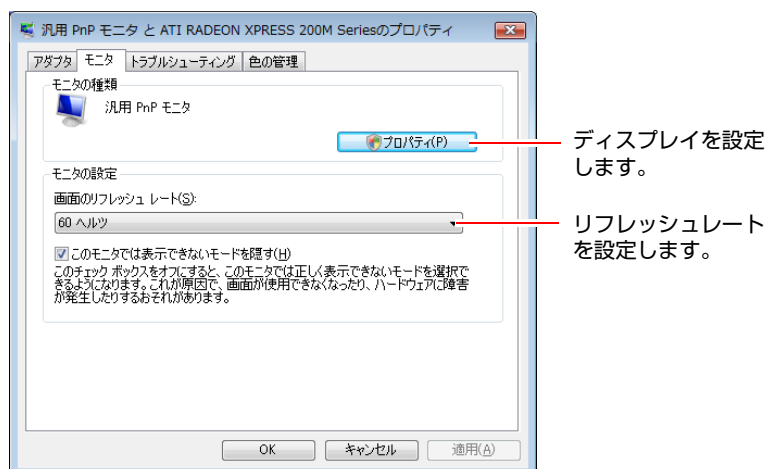


表示できる解像度

実際に表示できる最大解像度はコンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

▶表示装置に関する設定

画面の設定の[詳細設定]—「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



お使いのビデオボードによって、表示される画面は異なりますが、「モニタ」タブに関しては同じ内容が表示されます。

ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、7.1chサラウンド対応のサウンド機能が搭載されています。7.1chに対応した外部スピーカを接続すると、臨場感のあるサウンドを楽しむことができます。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

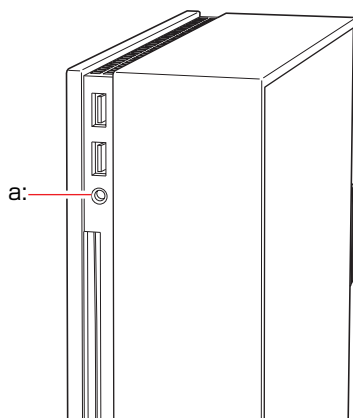
内蔵モノラルスピーカ

本機には、モノラルスピーカが内蔵されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。

▶外部オーディオ機器などの接続

本機には、スピーカやヘッドフォン、マイクなどのオーディオ機器を接続するためのサウンドコネクタが搭載されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。

前面側




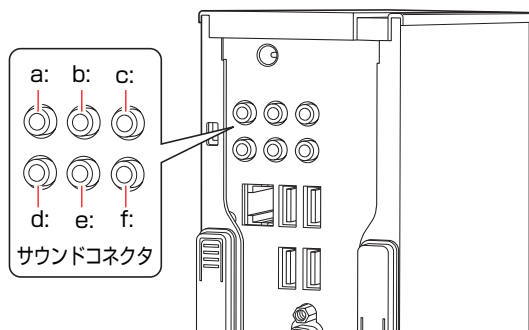
- a: ヘッドフォン出力コネクタ ()
スピーカやヘッドフォンと接続して音声を出力します。







背面側

オーディオ機器の接続方法は、オーディオ機器に添付されているマニュアルをご覧ください。

オーディオ機器を接続したら、サウンドユーティリティでスピーカの種類を設定します。

 p.76 「スピーカの種類の設定」



- a: ライン入力コネクタ  (青色)
オーディオ機器と接続して音声を入力します。
- b: フロントスピーカ/ライン出力コネクタ  (黄緑色)
フロントスピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。通常、スピーカはこのコネクタに接続します。
- c: マイク入力コネクタ  (ピンク色)
マイクと接続して音声を入力します。
- d: センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ  (茶色)
センタースピーカ、サブウーファと接続して音声を出力します。
- e: リアスピーカ出力コネクタ  (黒色)
リアスピーカと接続して音声を出力します。
- f: サイドスピーカ出力コネクタ  (灰色)
サイドスピーカと接続して音声を出力します。

参考

使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果の設定ができます。サウンドユーティリティを起動するには、画面右下の通知領域に表示されている「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。



＜サウンドユーティリティアイコン＞

次の画面が表示されます。




設定項目を選択
します。

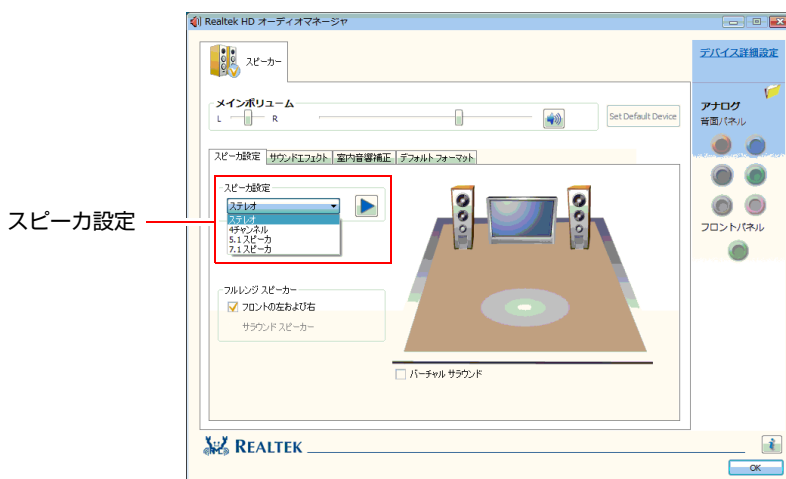
各種設定を行います。

スピーカの種類の設定

サウンドコネクタに機器を接続した場合は、サウンドユーティリティで、スピーカの種類を設定する必要があります。

オーディオケーブルが1本の場合は、スピーカの種類の設定は不要です。設定方法は次のとおりです。

- 1 サウンドユーティリティを起動します。
- 2 「スピーカ設定」項目で、使用するチャンネルを選択します。
設定後  をクリックすると、スピーカの自動テストを行うことができます。



- 3 サウンドエフェクトや、室内音響補正など、そのほかの設定を行う場合は、各タブを選択し、設定を行います。
- 4 すべての設定が完了したら、[OK] をクリックします。
これでスピーカの種類の設定は終了です。

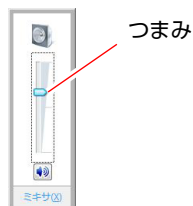
▶音量の調節

スピーカを接続していて、Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカ」アイコンをクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカアイコン>



ボリュームコントロール

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は、「Windows Media Player」を使用します。「Windows Media Player」は、次の場所から実行します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は、「サウンドレコーダー」を使用します。「サウンドレコーダー」は、次の場所から実行します。

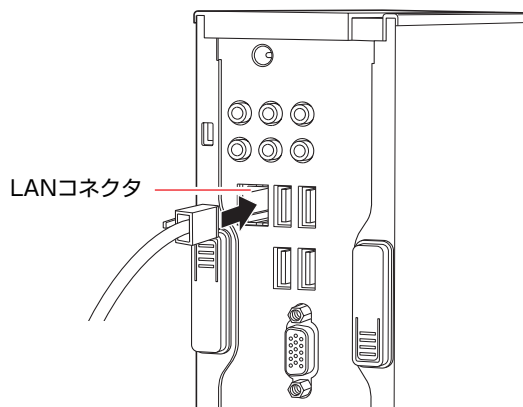
[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「サウンドレコーダー」

ネットワーク機能を使う

本機のメインボード上には、100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。




▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。




制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のどちらかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
 p.95 「省電力状態に移行する方法」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態へ復帰できない場合があります。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、次をご覧ください。

 p.80 「インターネットに接続するには」

▶ Wakeup On LAN

「Wakeup On LAN」とは、シャットダウン時やスリープ状態、休止状態にネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。シャットダウンからの復帰は、本機が正常に終了した状態でのみ使用可能です。

Wakeup On LANを有効に設定する

Wakeup On LANを有効にするには、「BIOS Setupユーティリティ」で次の項目を変更してください。

「Power」メニュー画面－「APM Configurations」
Power On by PCI device : Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」(無効)に設定されています。



p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」



参考

Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN (Power on By PCI devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

▶ リモートブート

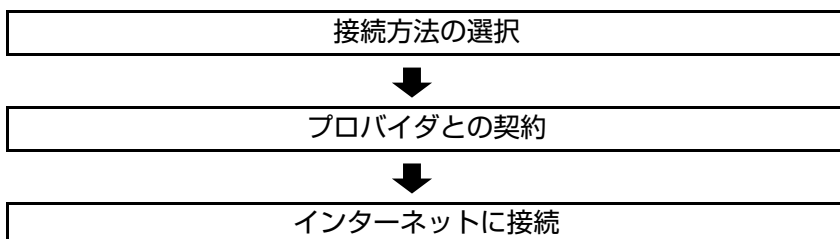
リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsなどのOSをインストールすることができます。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

遅い 速い

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー (FTTH)

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- そのほかの接続方法 (ナローバンド)

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

参考

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶ インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

参考

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書はなくさないように大切に保管してください。


▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法は、 p.85 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Windowsメール

ここでは、これらのソフトウェアを使う際の補足事項について記載していません。

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Windowsメールの初期設定

Windowsメールをはじめて起動する場合は、初期設定を行います。
初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Windowsメール」 をクリックします。
- 2** 「名前」と表示されたら、名前を入力して「次へ」 をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して「次へ」 をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバーのセットアップ」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して「次へ」 をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているユーザー名とパスワードを入力して「次へ」 をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、「完了」 をクリックします。



参考

設定を変更する

一度行った設定は、次の場所から変更することができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - 「追加」 - 「電子メールアカウント」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用时、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



<画面はイメージです>

Internet Explorerの便利な追加機能

● JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



<JWordアイコン>

● gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を確認し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

自動更新の設定

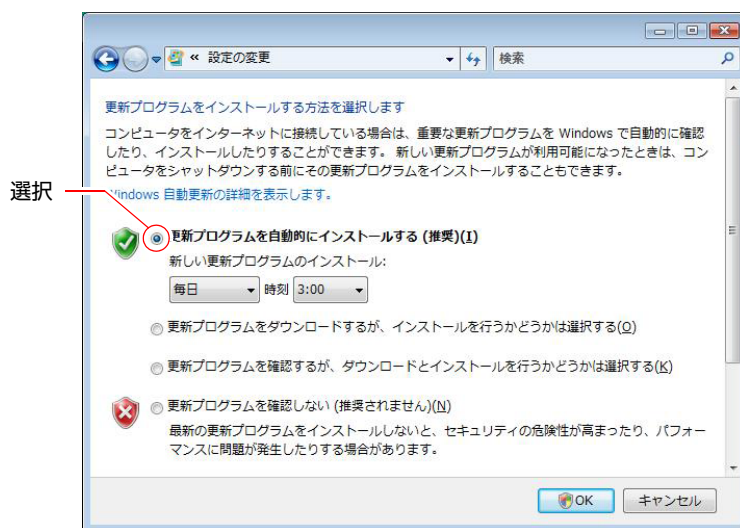
本機を使用する際は、自動でWindows Updateが行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。

Windowsのセットアップ時に「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート]—[すべてのプログラム]—[Windows Update]—[設定の変更]



手動で更新プログラムをインストールする

重要度の高い更新プログラムは自動更新でインストールされますが、それ以外の更新プログラムは手動でインストールする必要があります。

更新プログラムがダウンロードされると、画面右下の通知領域に「Windows Update」アイコンが表示されます。



<Windows Updateアイコン>

アイコンをクリックして表示される「Windows Update」画面で更新プログラムを確認し、必要に応じてインストールを行ってください。

▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺対策機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使う

市販のウイルス対策ソフトウェア（セキュリティソフトウェア）を使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。

インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんや破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版をインストールすると、自動的にファイアウォール機能が有効になります。そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

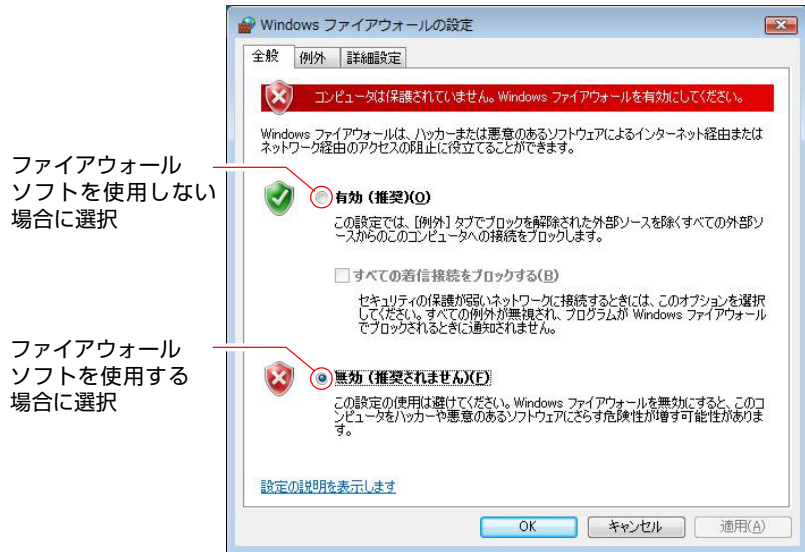
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

【スタート】－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows
ファイアウォール」－「設定の変更」



▶ Windows Defender

Windows Vistaには、スパイウェアやそのほかのマルウェア（悪意のあるソフトウェア）を検出したり、駆除したりするツール「Windows Defender」が備えられています。

「Norton Internet Security 90日版」などのスパイウェア対策機能を持つソフトウェアを使用している場合は、機能が重複するため、Windows Defenderが自動で「無効」に設定される場合があります。この場合は、そのまま使用してください。スパイウェア対策機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Windows Defenderを使用してください。

Windows Defenderは次の場所から起動します。

【スタート】－「コントロールパネル」－「セキュリティ」－「Windows
Defender」

▶フィッシング詐欺検出機能

フィッシング詐欺とは、金融機関などのメールやホームページを装い、ユーザーに暗証番号やクレジットカード番号を入力させて、個人情報や金銭を搾取する詐欺のことです。

本機には、「フィッシング詐欺検出機能」が搭載されています。セキュリティを守るため、機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のフィッシング詐欺検出機能

本機に添付のセキュリティソフト「Norton Internet Security 90日版」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。機能を「有効」にしてお使いください。

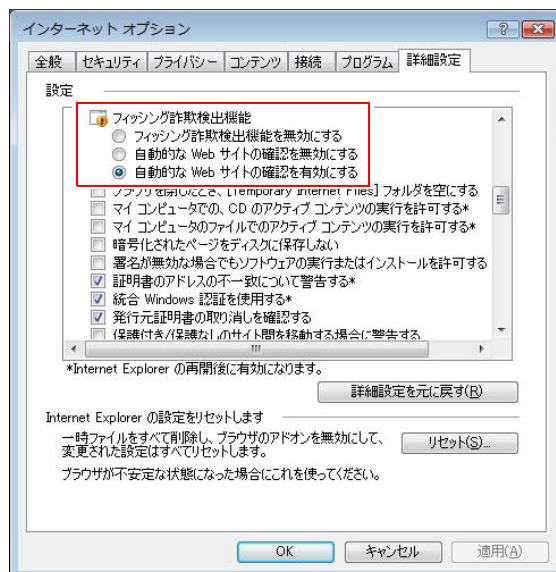
Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能

ホームページ閲覧ソフト「Internet Explorer」には、フィッシング詐欺検出機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」などのフィッシング詐欺検出機能を「有効」にしている場合は、機能が重複するため、Internet Explorerの機能が自動で「無効」に設定される場合があります。そのまま使用してください。

フィッシング詐欺検出機能を持つソフトウェアなどを使用しない場合は、Internet Explorerの機能を「有効」に設定してください。

Internet Explorerのフィッシング詐欺検出機能の有効／無効の設定は、次の場所で行います。

Internet Explorerの「ツール」－「フィッシング詐欺検出機能」－「フィッシング詐欺検出機能の設定」－「詳細設定」タブ－「フィッシング詐欺検出機能」



電源設定を行う (省電力機能を使う)

ここでは、本機の電源の設定について説明します。

▶電源プランの設定

本機には、次の3つの電源プランが用意されています。電源プランの選択により電力消費を抑えたり、パフォーマンスを優先させたりすることができます。使い方に合わせた電源プランを選択して本機を使用してください。

- バランス

パフォーマンスと電力消費のバランスを考えたプランです。

- 省電力

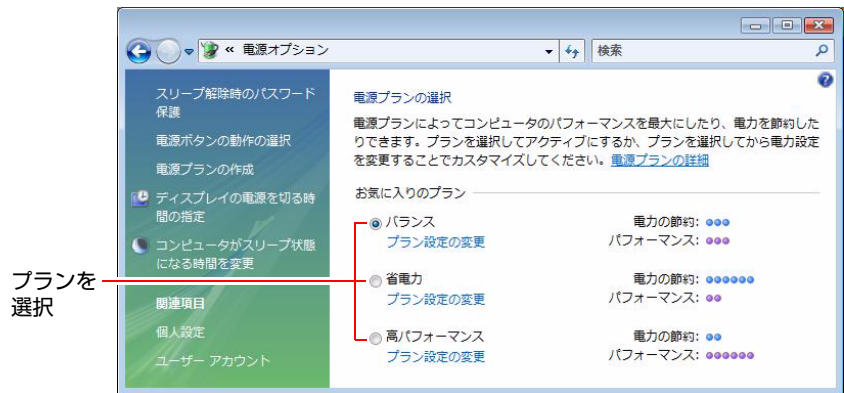
コンピュータの電力消費を抑えるプランです。パフォーマンスは低下します。

- 高パフォーマンス

電力消費は抑えずに、パフォーマンスを優先させるプランです。

電源プランの選択は、次の場所から行います。

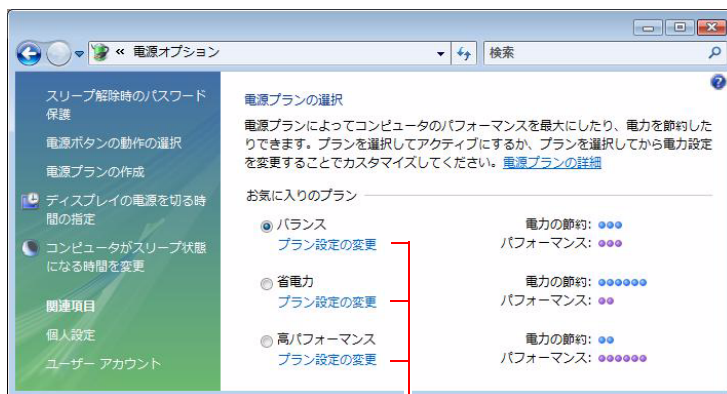
[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」



購入時は「バランス」に設定されています。

電源プランの内容変更

電源プランの内容（省電力の設定など）は、変更することができます。変更は、各プランの「プラン設定の変更」から行います。



プラン内容の変更

「プラン設定の変更」では、本機が省電力状態に移行するまでの時間の設定などを行うことができます。

 p.95 「省電力状態に移行する方法」



▶本機を省電力状態にする

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の制限

省電力状態に移行するには、次のような制限事項があります。移行する前に、必ず確認してください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ アプリケーションを起動している

- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.95 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりアプリケーションの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
 - 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態中に、周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
 - ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
-  p.95 「省電力状態に移行する方法」

省電力状態の種類

省電力状態には、次の3つの種類があり、状況に応じて使い分けることができます。

- **ディスプレイの電源を切る**

省電力の効果はスリープ状態より低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- **スリープ状態**

作業内容をメモリとHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。
- **休止状態**

作業内容をHDDに保存し、コンピュータを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。



制限

スリープ状態のときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに、正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切ってから、もう一度入れ直してください。

休止状態を有効にする

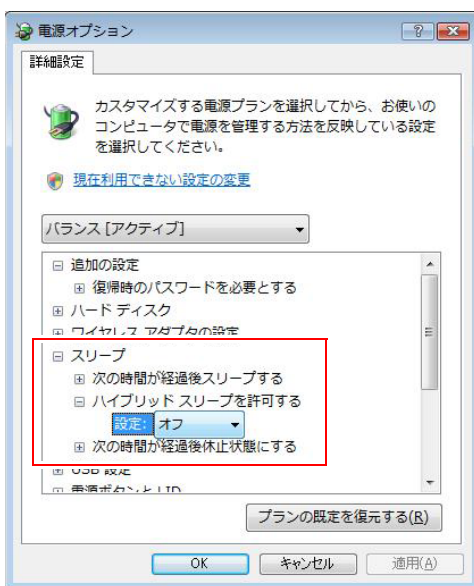
本機では休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには次の設定を行ってください。



休止状態を有効にした場合、スリープ状態に移行すると、作業内容はメモリのみに保存されるようになり、HDDには保存されなくなります。

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1 p.92 「電源プランの内容変更」で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2 「スリープ」－「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3 [OK] をクリックします。



▶省電力状態に移行する方法

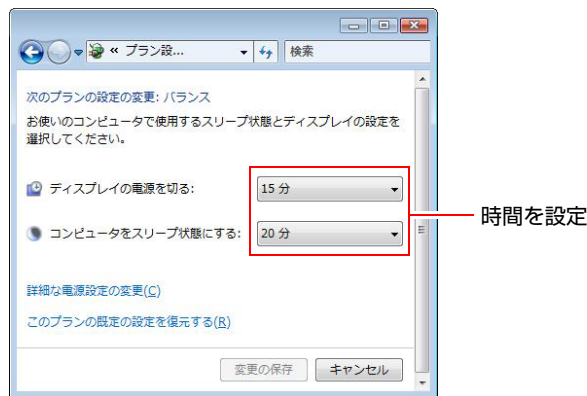
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピュータを操作しない状態で、「電源プラン」で設定されている時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピュータがスリープ状態になります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピュータをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとメンテナンス」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



参考

時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

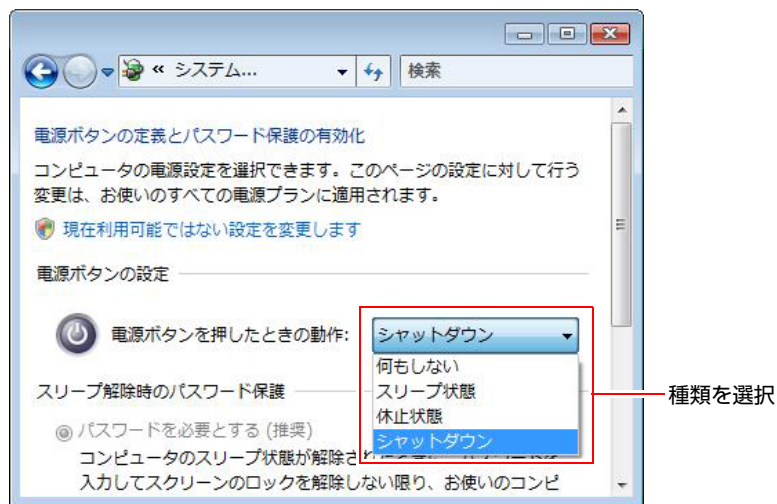
次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。


操作	省電力状態の種類
[スタート] - [⏻] をクリックする	スリープ状態（初期値）
[スタート] - [▶] から項目を選択する	スリープ状態、休止状態*、シャットダウン

*購入時は表示されません。

電源スイッチを押したときにも省電力状態に移行することができます。設定は次の場所から行います。

[スタート] - [コントロールパネル] - 「システムとメンテナンス」 - 「電源オプション」 - 画面左側の「電源ボタンの動作を選択する」



休止状態を選択したい場合は、 p.94 「休止状態を有効にする」を参照して設定を有効にしてください。

電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプ (Ⓛ) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常の状態	点灯 (青)
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (青)
スリープ状態	点滅 (青)
休止状態	消灯
電源切断時 (シャットダウン時)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源が切れている状態	点灯	マウスやキーボードを操作する (誤って電源スイッチを押さないでください)
スリープ状態	点滅	電源スイッチを押す
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

▶スピードステップ機能

<インテルCoreプロセッサ搭載時>

本機では、「スピードステップ」機能が自動的に機能しています。スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて、CPUの処理速度を自動で調整する機能です。

CPUの使用率が少ないときは、CPUの処理速度を抑え、消費電力を少なくします。また、CPUの使用率が高いときはCPU処理が高速になります。

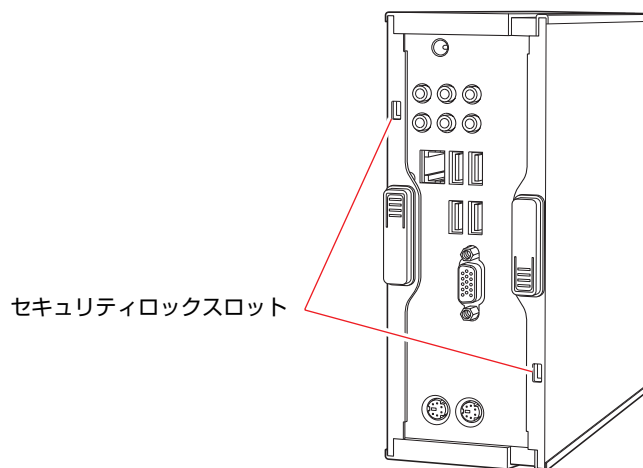
▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が2つ搭載されています。どちらか1つに、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。

当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://epsondirect.jp/>



第3章 システムの拡張

アップグレードサービスやメモリの増設方法について説明します。

「拡張できる装置」	100
「作業時の注意」	101
「本体カバーの着脱」	102
「メモリの増設」	104

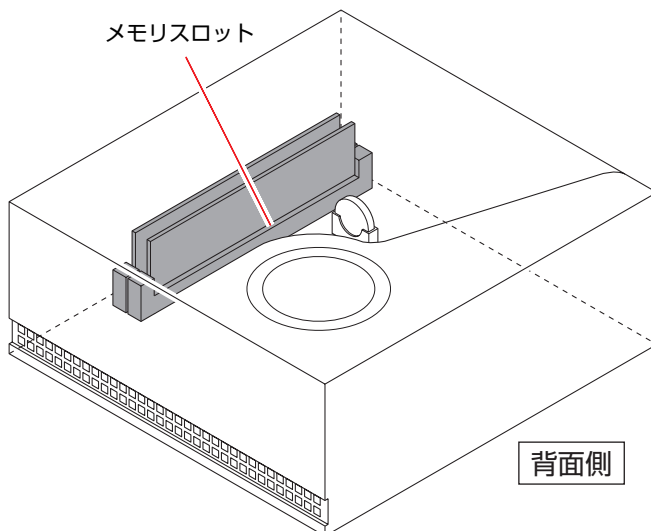
拡張できる装置

本機は、メモリを増設・交換して機能を拡張することができます。




制限

メモリ以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。



メモリスロット

2つのスロットにメモリを差して、メモリを最大2GBまで拡張することができます。

 p.104 「メモリの増設」

アップグレードサービス

当社では、コンピュータ本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

本機では次の装置のアップグレードサービスを利用できます。

- メモリ : 増設・交換
- HDD : 交換
- ドライブ : 交換

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターの連絡先は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、次の点に注意してください。



- 電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- メモリの増設、交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機の電源を切っても電源プラグがコンセントに接続されていると微少な電流が流れています。作業を始める前に必ずコンセントから電源プラグを外してください。
- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- メモリは落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

本体カバーの着脱

メモリを増設・交換する場合は、本体カバーを外す必要があります。



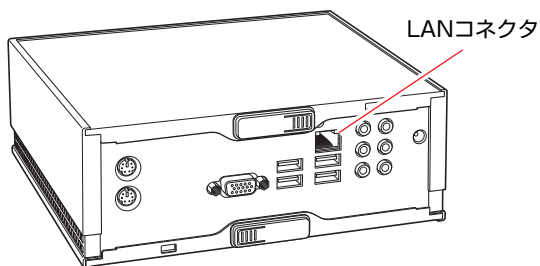
コンセントに電源プラグを接続したまま作業をしないでください。
感電・火傷の原因となります。

▶本体カバーの取り外し・取り付け

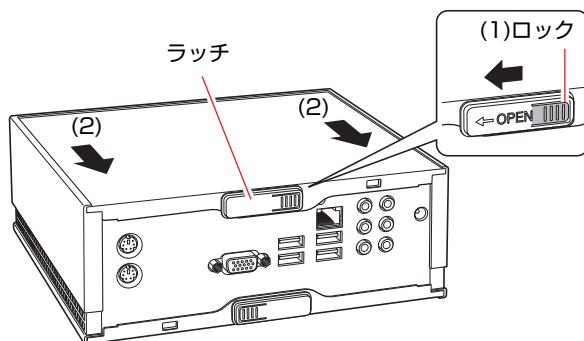
取り外し

本体カバーの取り外し方法は、次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体とコンピュータに接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** LANコネクタ側を上にして、コンピュータを横向きにします。



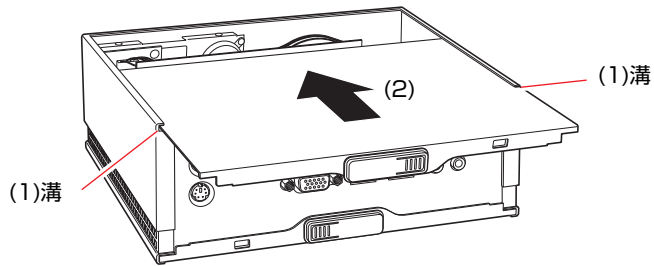
- 4** 本体カバーを取り外します。
 - (1) ラッチのロックを少し押し込みながら、ラッチをOPENの矢印の方向にスライドさせます。
 - (2) 本体カバーを手前に引き抜きます。



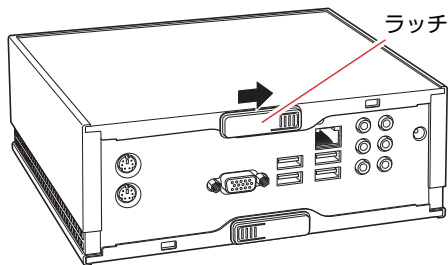
取り付け

本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本体カバーを取り付けます。
 - (1) 本体カバーを本体の両側面の溝にはめ込みます。
 - (2) 本体カバーを奥までスライドさせます。



- 2** ラッチをOPENと反対の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて本体カバーを固定します。



- 3** コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 4** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
これで本体カバーの取り付けは完了です。

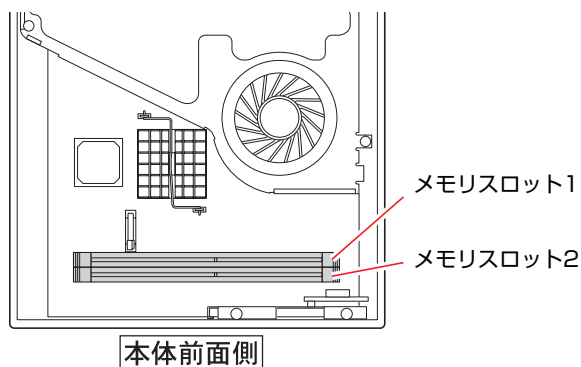
メモリの増設

本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機には、メモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより最大2GBまで拡張できます。

メモリはメモリスロット1から取り付けます。購入時に、メモリスロット1には、あらかじめメモリが取り付けられています（購入時のシステム構成により、メモリの数や容量は異なります）。



本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-4200 (DDR2-533 SDRAM使用)
- メモリ容量 512MB、1024MB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=4

最新メモリ情報


今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。

本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。


<http://epsondirect.jp/>

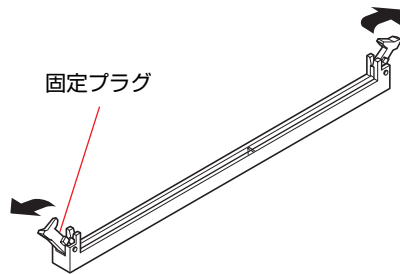
▶メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.101 「作業時の注意」を必ずお読みください。

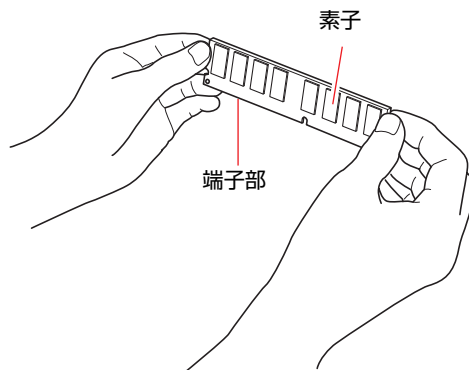
取り付け

メモリの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体とコンピュータに接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** メモリスロットの固定プラグを開きます。

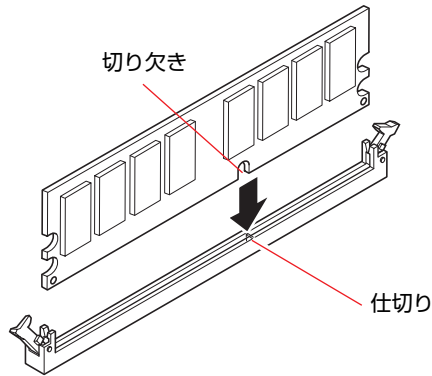


- 5** メモリを静電気防止袋から取り出します。
メモリの端子部や素子に触れないように注意してください。



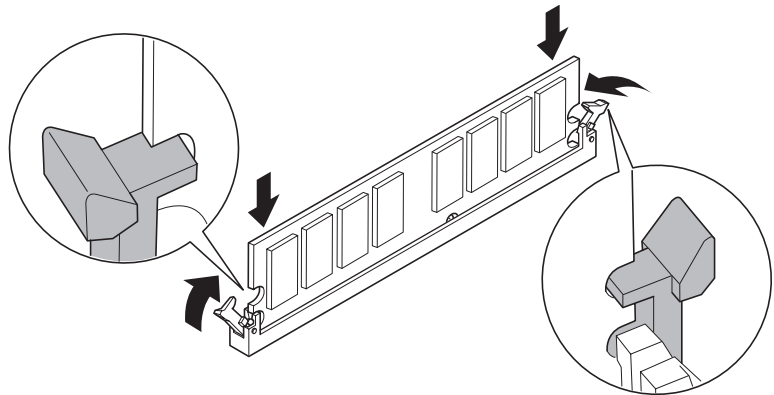
6 メモリスロットにメモリを差し込みます。

(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。




(2) メモリを押し込むと、カチッと自動的に固定プラグが閉じて、メモリが固定されます。

必ず、メモリが固定されたことを確認してください。




7 本体カバーを取り付けます。

 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」


8 コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。

9 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

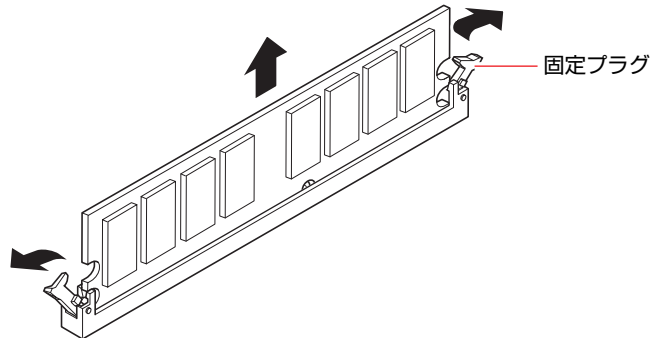
10 コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。

 p.107 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリの取り外しは、 p.105 「メモリの取り付け・取り外し」の手順4～6を次の手順に読み替えて行ってください。


- 1 メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。



- 2 メモリが外れたら、静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリの容量を確認します。
メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 シャットダウン状態からコンピュータの電源を入れたら、**[Delete]**を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」で総メモリ容量を確認します。
メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、取り付けなおしてください。

参考

メモリ容量の表示

本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ（64MB）を引いた値が表示されます。

第4章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	110
「BIOS Setupユーティリティの操作」	111
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	119

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 p.195 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら


設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一来に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.119 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

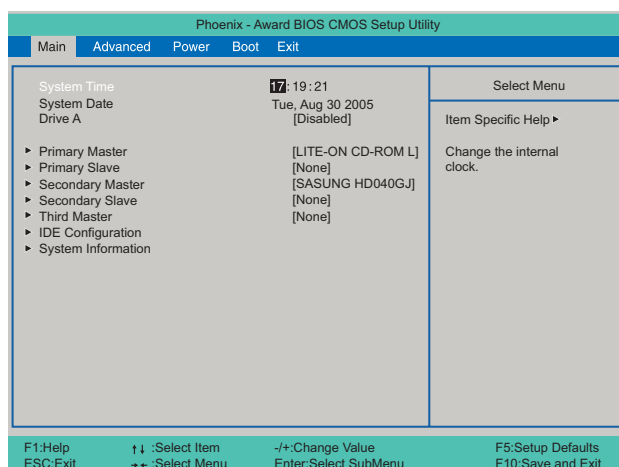
 p.115 「設定値を元に戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** シャットダウン状態から本機の電源を入れます。
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を押します。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動し、手順2をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。




<BIOS Setupユーティリティ画面 (イメージ) >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, Press DEL to run Setup

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Save & Exit Setup」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

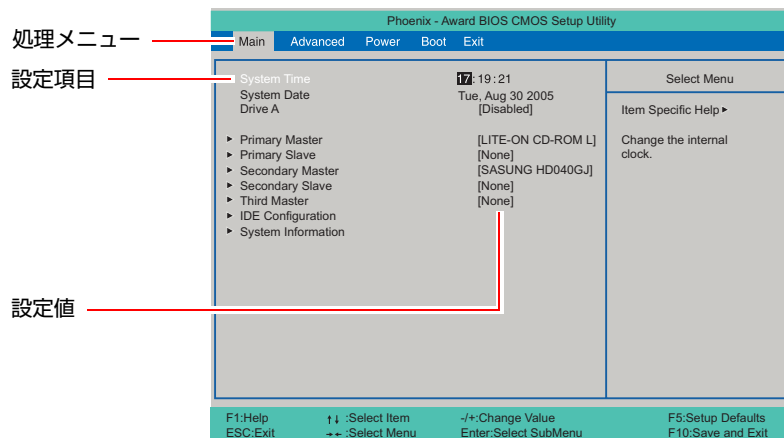
 p.118 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶BIOS Setupユーティリティの操作


BIOS Setupユーティリティの操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOSセットアップユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。
この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。
各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.119 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

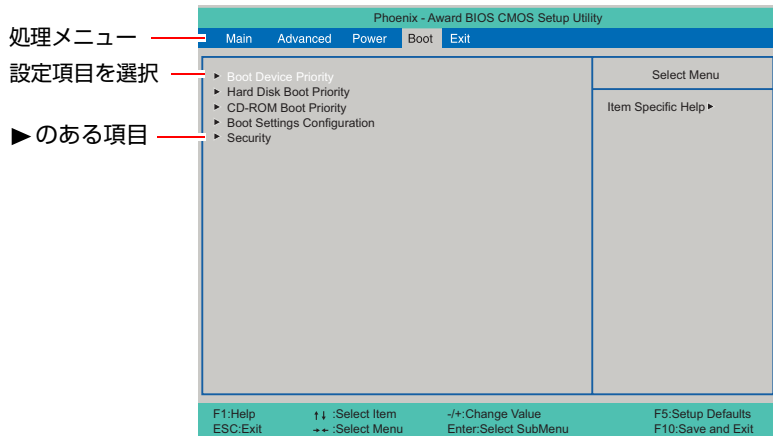
操作方法

BIOS Setupユーティリティの設定値を変更する方法は次のとおりです。

1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<▶のある項目の場合>

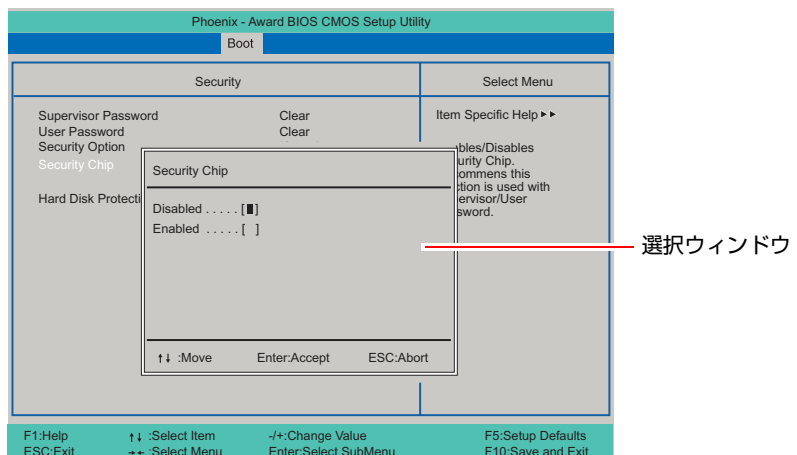
▶のある項目の場合、←↓を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

サブメニュー画面から戻るには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

←↓を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ←↓ で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">● 変更した内容を破棄し、終了します。● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶設定値を元に戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Optimized Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す手順は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Optimized Defaults (Y/N) ?	
[YES]	[NO]

- 2 [YES] を選択して、**↵** を押します。


Load Optimized Defaults 実行後の作業

次のような場合は、Load Optimized Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Security Chip」を「Enabled」に設定します。メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.118 「Save & Exit Setup（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Previous Values (Y/N) ?	
[YES]	[NO]

- 2 [YES] を選択して、**↵** を押します。

▶ Passwordの設定

パスワードを設定することで、本機を使用するユーザーを限定することができます。Windows起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないと本機を使用することができません。

パスワードの設定は、「Boot」メニュー画面にあるPasswordに関する設定項目で行います。

 p.123 「Bootメニュー画面」

パスワードの種類

パスワードには、次の2種類があります。


- **Supervisor Password (管理者パスワード)**
コンピュータの管理者用のパスワードです。このパスワードでBIOSにログインした場合、BIOSのすべての項目を変更することができます。
- **User Password (ユーザーパスワード)**
そのほかのユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードには、BIOSにログインした際の制限を設定することができます。

アクセス制限の設定

管理者パスワードでBIOSにログインすると、アクセス制限の種類やHDDへのアクセス制限を設定することができます。

アクセス制限の種類

アクセス制限には次の2種類があります。

- **Setup**
BIOSへのアクセスを制限します。BIOS起動時にパスワード入力が必要になります。
- **System**
BIOS、Windowsへのアクセスを制限します。BIOS起動時とWindows起動時、省電力状態からの復帰時にパスワード入力が必要になります。
アクセス制限の選択は、 p.123 「Bootメニュー画面」 - 「Security」 - 「Security Option」で行います。

HDDへのアクセス制限

管理者パスワードを設定すると、HDDへのアクセス制限を設定することができます。HDDへのアクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Windows起動時や省電力状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。

HDDへのアクセス制限の設定は、 p.123 「Bootメニュー画面」 - 「Security」 - 「Security Option」で行います。




パスワードを忘れると、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

パスワード入力時の注意


パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

パスワードの設定・変更


管理者パスワードやユーザーパスワードの設定・変更方法は次のとおりです。ユーザーパスワードは、管理者パスワードを設定すると、設定できるようになります。

- 1 「Boot」メニュー画面－「Security」で「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

- 3 次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。


Confirm Password:

パスワード入力を間違えた場合は、手順1からやりなおしてください。


- 4 パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Set」に変わります。

パスワードの削除

管理者パスワードとユーザーパスワードを削除する方法は次のとおりです。管理者パスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。管理者パスワードを削除する場合は、BIOS Setupユーティリティ起動時に管理者パスワードを入力してください。

- 1 「Supervisor Password」または「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

- 2 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

PASSWORD DISABLED!!!
Press any key to continue...


- 3 どれかキーを押すと、パスワードが削除され、「Supervisor Password」または「User Password」項目の表示が「Clear」に変わります。これでパスワードが削除されました。

▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save & Exit Setup（変更した内容を保存し終了する）

変更した設定値を保存して、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。


- 1  を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?
[YES] [NO]

- 2 [YES] を選択し、 を押します。

Exit Without Saving（変更した内容を破棄し終了する）

変更した設定値を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

- 1  を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit Without Saving」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Quit Without Saving (Y/N) ?
[YES] [NO]

- 2 [YES] を選択し、 を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。
- Powerメニュー画面
省電力機能に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態、パスワードの設定などを行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶ Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

____は初期値
*は項目表示のみ

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定		時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Primary Master Third Master Fourth Master IDE装置の仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) Modeの設定をします。初期値 [Auto] のまま使用します。
	*Device	IDE 装置の機器の名称を表示します。
	*Vendor	IDE 装置の型番を表示します。
	*Size	HDDの容量を表示します。
	*Ultra DMA	Ultra DMA 対応装置の転送モードとチャンネルを表示します。
	*PIO Mode	IDE 装置の転送モードを表示します。
	*SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかを表示します。
	SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。
IDE Configuration	On-Chip Primary PCI IDE	初期値 [Enabled] のまま使用します。
IDE 装置の仕様を設定します。	On-Chip Serial ATA Controller	初期値 [IDE] のまま使用します。
System Information 本機の仕様を表示します。	*BIOS Version	BIOSの情報を表示します。
	*Installed Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	*Manufacturer	メーカーを表示します。
	*Brand String	型番を表示します。
	*Frequency	周波数を表示します。
	*FSB Speed	バススピードを表示します。
	*Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	*Cache L3	CPUのL3キャッシュ容量を表示します。
	*Ratio Status	CPUクロックの設定を表示します。
	*Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Enhanced C1 (C1E)	拡張C1ステート (C1E) の設定をします。C1E機能を持つプロセッサが搭載されたモデルで表示されます。 初期値「Enabled」のまま使用します。 <u>Enabled</u> : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
	Execute Disable Bit	データ実行防止機能の設定をします。データ実行防止機能に対応したプロセッサが搭載されたモデルで表示されます。 <u>Enabled</u> : 有効にします。 Disabled : 無効にします。
Intel (R) Virtualization tech.	Intel Virtualization Technology機能の設定をします。Virtualization Technology機能を持つプロセッサが搭載されたモデルで表示されます。 <u>Enabled</u> : 有効にします。 Disabled : 無効にします。	
Intel (R) SpeedStep (tm) tech.	スピードステップ機能 (EIST) の設定をします。EIST機能を持つプロセッサが搭載されたモデルで表示されます。 初期値「Automatic」のまま使用します。 <u>Automatic</u> : 有効にします。 Disabled : 無効にします。	
North Bridge Configuration メインボード上の機能に関する設定をします。	Onboard Video Memory Size	メインメモリから使用するビデオメモリの容量の最小値を設定します。 初期値「Auto」のまま使用します。 <u>Auto</u> , 32MB, 64MB, 128MB, 256MB

Integrated Peripherals メインボード上のデバイスに関する設定をします。	Onboard Audio	メインボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 <u>Enabled</u> : 使用します。 Disabled : 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 <u>Disabled</u> : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Plug And Play O/S PCIPnPに関する設定をします。	PNP OS Installed	OSインストールのための設定です。初期値 [No] のまま使用します。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	USB Controller	初期値 [Enabled] のままで使用します。
	USB 2.0 Controller	USBの転送速度を設定します。 <u>Enabled</u> : USB2.0の転送速度で使用します。 Disabled : USB1.1の転送速度で使用します。

▶Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


___は初期値

*は項目表示のみ

Suspend to RAM		<p>スリープ状態の設定をします。</p> <p>Enabled : メモリ以外の電源が切れるため、消費電力はほとんどありません。</p> <p>Disabled : 不必要な電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。</p>
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	<p>電源切断時に、電源スイッチを押さずに電源供給時に起動するかを設定します。</p> <p>分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますので、ご注意ください。</p> <p>Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。</p> <p>On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。</p> <p>Former-Sts : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。</p> <p>正常にシャットダウンした状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。</p>
	Power On by PCI device	<p>メインボードのネットワークから起動するかを設定します。</p> <p>Disabled : 起動しません</p> <p>Enabled : 起動します</p>
	Power On by Alarm	<p>タイマーで起動するかを設定します。</p> <p>Disabled : 起動しません</p> <p>Enabled : 起動します</p>
	Date (of Month)	<p>「Power On by Alarm」を「Enabled」に設定すると、設定可能になります。</p> <p>タイマーで起動する日を設定します。</p>
	Resume Time (hh:mm:ss)	<p>「Power On by Alarm」を「Enabled」に設定すると、設定可能になります。</p> <p>タイマーで起動する日を設定します。</p>

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定とSecurityの設定を行います。Security項目のパスワードについては、「Passwordの設定」をご覧ください。

 p.116 「Passwordの設定」

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

システムを起動するドライブの順番を設定します。	First Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。初期値は「CDROM」（光ディスクドライブ）です。
	Second Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は「Removable」（USB FDDなど）です。
	Third Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値は「Hard Disk」（HDD）です。
	Fourth Boot Device	ネットワークから起動する場合は、「Network」を設定し、「Advanced」メニュー画面－「Integrated Peripherals」－「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定します。初期値は「Disabled」です。
Hard Disk Boot Priority		HDDの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。
CD-ROM Boot Priority		光ディスクドライブの優先順位を設定します。初期値のまま使用します。
Boot Settings Configuration	Boot Up NumLock Status	DOS起動時のNum Lockの状態を設定します。 Off：Num Lockオフの状態にします。 On：Num Lockオンの状態にします。
	Full Screen LOGO Show	起動時にロゴを表示するかを設定します。 Disabled：表示しません。 <u>Enabled</u> ：表示します。

Security セキュリティ機能の設定を行います。	Supervisor Password	<p>管理者パスワードを設定します。</p> <p> p.116 「Passwordの設定」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p>
	User Password	<p>管理者パスワードを設定すると、設定可能になります。</p> <p>ユーザーパスワードを設定します。</p> <p> p.116 「Passwordの設定」</p> <p><u>Clear</u> : パスワードが設定されていません。</p> <p><u>Set</u> : パスワードが設定されています。</p>
	Security Option	<p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>アクセス制限の種類を選択します。</p> <p><u>Setup</u> : BIOS起動時にパスワード入力が必要です。</p> <p><u>System</u> : BIOS起動時とWindows起動時、省電力状態からの復帰時にパスワード入力が必要です。</p> <p>※「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定した場合は、自動的に「System」に設定されます。</p>
	Hard Disk Protection	<p>管理者パスワードを設定すると設定が有効になります。</p> <p>HDDへのアクセス制限の設定をします。アクセス制限を行ったHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。</p> <p>HDDにアクセスするには、BIOS起動時、Windows起動時や休止状態からの復帰時にパスワードの入力が必要です。</p> <p><u>Disabled</u> : HDDへのアクセスを制限しません。</p> <p><u>Enabled</u> : HDDへのアクセスを制限します。</p>
	Security Chip	<p>セキュリティチップ (TPM) の機能を使用するかを設定します。</p> <p><u>Disabled</u> : 使用しません。</p> <p><u>Enabled</u> : 使用します。</p>
	Clear Security Chip	<p>「Security Chip」を「Enabled」に設定すると表示されます。</p> <p>セキュリティチップ (TPM) の設定を初期化 (消去) します。</p> <p>初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。</p> <p>セキュリティチップ (TPM) の初期化は、十分に注意し、お客様の責任において行ってください。</p> <p>セキュリティチップ (TPM) の情報を初期化する場合は、[Enter] を選択し、「Setup Warning」画面が表示されたら、[YES] を選択します。「Setup Confirmation」画面が表示されたら、[YES] を選択すると、情報が初期化され、コンピュータが再起動します。</p>

起動するドライブの順番を変更する

「Boot」メニュー画面の「Boot Device Priority」では、システムを起動 (boot) するドライブの順番を設定しています。本機は、[First Boot Device]、[Second・・・] という順番で、システムを起動するドライブを検出します。

起動するドライブの順番を変更するには、サブメニューに表示される項目を設定しなします。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Save & Exit Setup	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Without Saving	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Optimized Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setupユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくると便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Enhanced C1 (C1E)	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Execute Disable Bit	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Intel (R) Virtualization tech.	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Intel (R) SpeedStep (tm) tech.	Disabled	Automatic	Disabled	Automatic
NorthBridge Configuration	Onboard Video Memory Size	Auto 32MB 64MB 128MB 256MB	Auto 32MB 64MB 128MB 256MB	Auto 32MB 64MB 128MB 256MB	Auto 32MB 64MB 128MB 256MB
Integrated Peripherals	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	OnBoard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Plug And Play O/S	PNP OS Installed	No	Yes	No	Yes
USB Configuration	USB Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
APM Con-figuration	Restore on AC Power Loss	Former-Sts	On	Off	Former-Sts	On	Off
	Power On by PCI device	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On by Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Boot Device Priority	First Boot Device						
	Second Boot Device						
	Third Boot Device						
	Fourth Boot Device						
Boot Settings Configuration	BootUp NumLock Status	Off	On		Off	On	
	Full Screen LOGO Show	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Security	Supervisor Password	Clear	Set		Clear	Set	
	User Password	Clear	Set		Clear	Set	
	Security Option	Setup	System		Setup	System	
	Hard Disk Protection	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Security Chip	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	128
「ソフトウェアの再インストールを行う」	129

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

Windowsを修復する

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows回復環境」でWindowsの修復を行ってみてください。再インストールしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.174 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う


ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

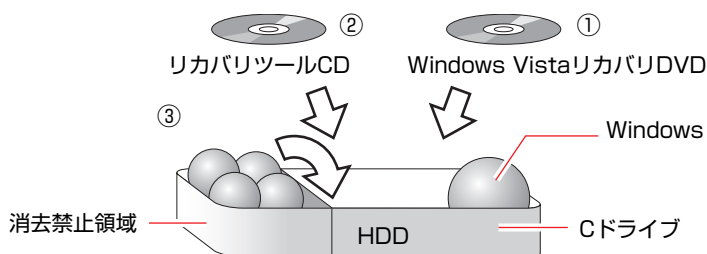
- Windows VistaリカバリDVD
Windows Vistaが収録されているDVD-ROMです。
- リカバリツールCD
本体ドライバやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。専用のメディアは添付されていません。

 p.22 「添付されているソフトウェア」

▶再インストールの概要


ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。



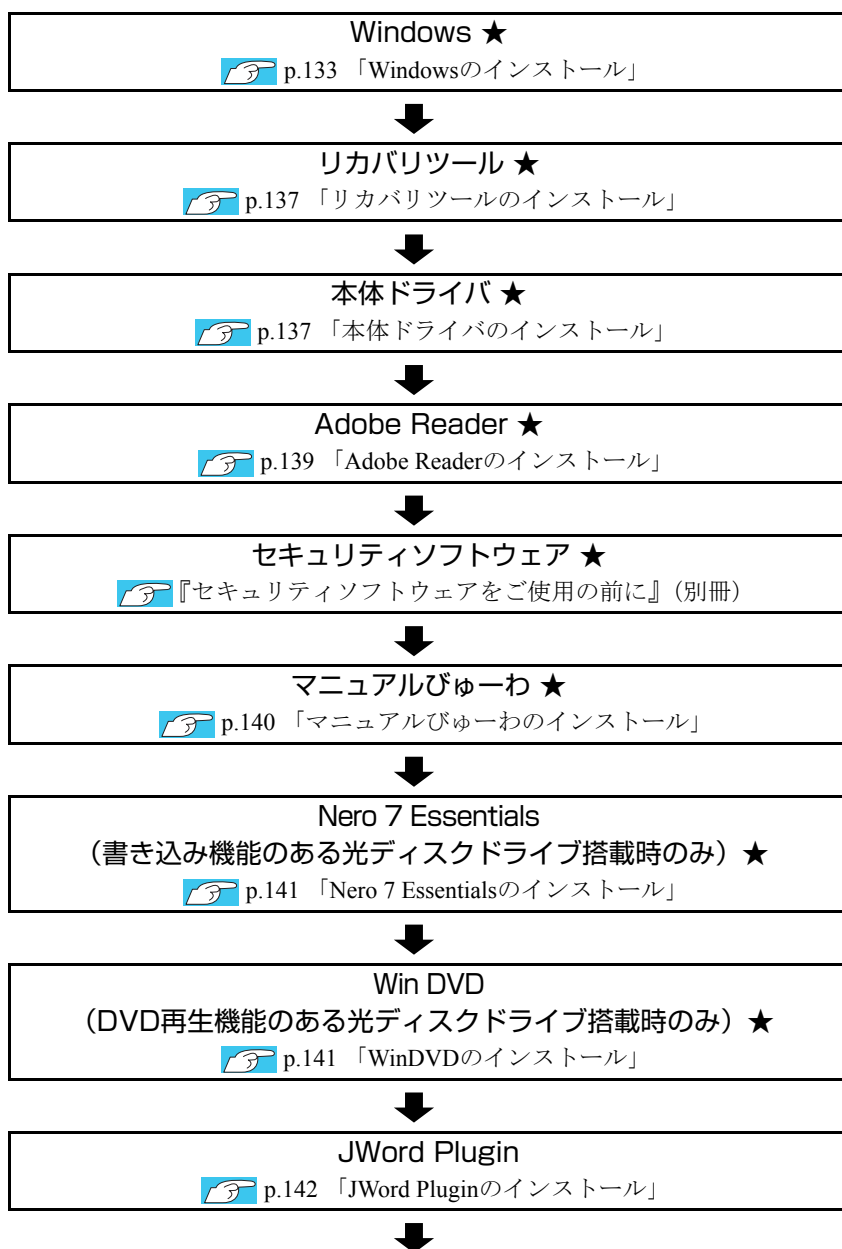
- ① Windows VistaリカバリDVDから、Windowsをインストールします。
- ② リカバリツールCDから、リカバリツールをインストールします。
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。
- ③ リカバリツールを使用して、本体ドライバやソフトウェアをインストールします。

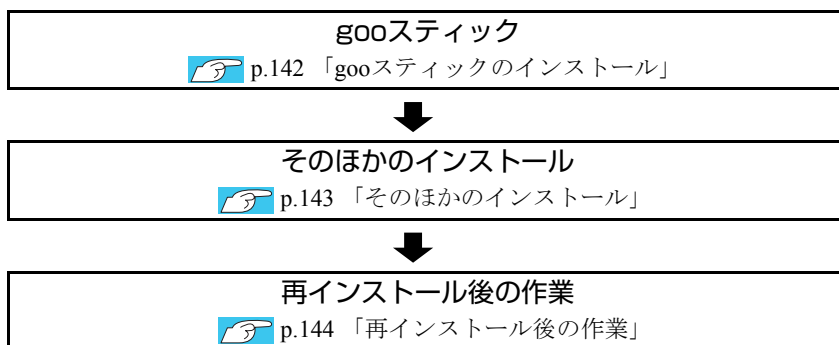
▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。購入時のインストール状態は、

 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

管理者 (Administrator) のアカウントでログオン

インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

- Aドライブ : USB FDD (オプション)
- Cドライブ : HDD
- Dドライブ : 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

 p.134 「バックアップを取る」

お問い合わせ情報

Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているサポート情報は消去されます。あらかじめご了承ください。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【システムとメンテナンス】 - 【システム】

サポート情報（お問い合わせ情報）の復元プログラムは、ユーザーサポートページからダウンロードできます。




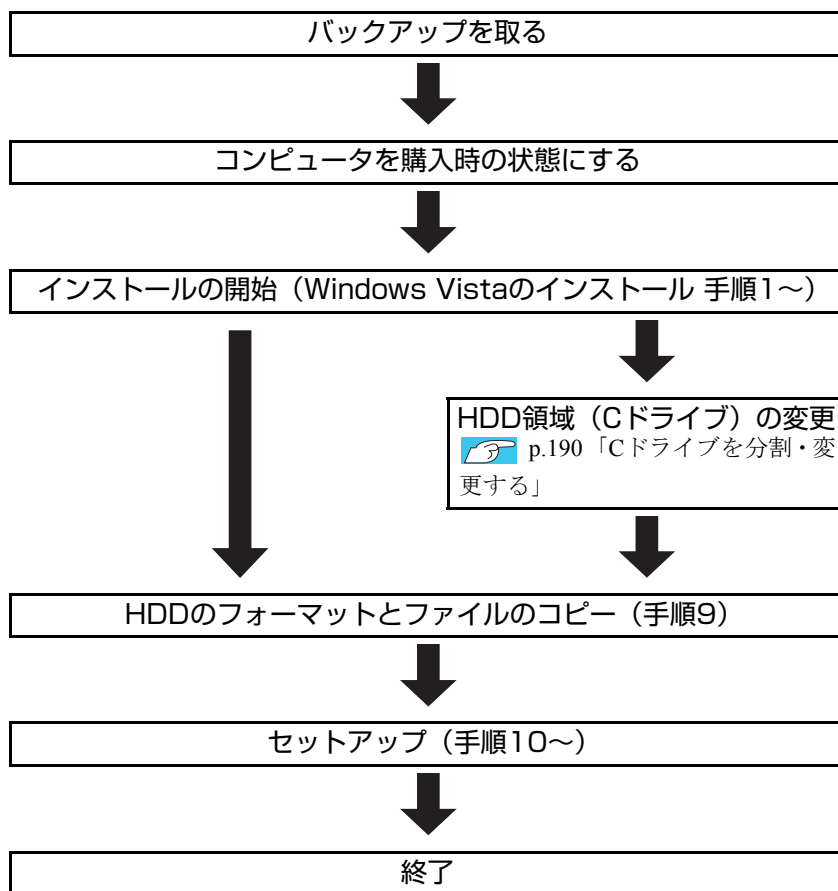
p.185 「電子マニュアルのダウンロード」

▶Windowsのインストール

インストールの流れ


Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。

インストール作業は、 p.134 「Windows Vistaをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。

HDD領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.187 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows Vistaをインストールする


バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。


- Internet Explorerの「お気に入り」、Windowsメールの「連絡先」「メールデータ」

 p.182 「データのバックアップ」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- セキュリティチップユーティリティの設定


セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」

- 重要なデータ

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。



詳しいバックアップの方法は  p.182 「データのバックアップ」をご覧ください。

コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows Vistaのインストール

Windows Vistaのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。
- 2** 「スタート」－－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。


- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
ここでHDD内のWindowsのチェックが行われます。Windowsの修復を促す画面が表示された場合は、画面の指示に従って修復を行ってください。
- 5** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windowsの再インストール」 をクリックします。
- 7** 「Windowsの再インストールを行います。」と表示されたら、[再インストール] をクリックします。
- 8** 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「条項に同意します」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
- 9** 「Windowsのインストール場所を選択してください。」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
<領域変更を行わない場合（通常）>
- (1) 「ドライブオプション（詳細）」 をクリックします。
 - (2) 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「フォーマット」 をクリックします。
 - (3) 「このパーティションをフォーマットすると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
 - (4) フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で [次へ] をクリックします。
Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。手順10の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。

<領域変更を行う場合>




p.190 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。

- 10** 「ユーザー名と画像の選択」と表示されたら、ユーザー名、パスワード（任意）を入力し、画像一覧からお好みの画像をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

 p.40 「セットアップ中に入力する項目」

- 11** 「コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。」と表示されたら、コンピュータ名を入力し、背景一覧からお好みの背景をクリックして選択し、[次へ]をクリックします。

 p.40 「セットアップ中に入力する項目」


- 12** 「Windowsを自動的に保護するよう設定してください」と表示されたら、保護の設定をクリックして選択します。

「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。

- 13** 「時刻と日付の設定の確認」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、[次へ]をクリックします。

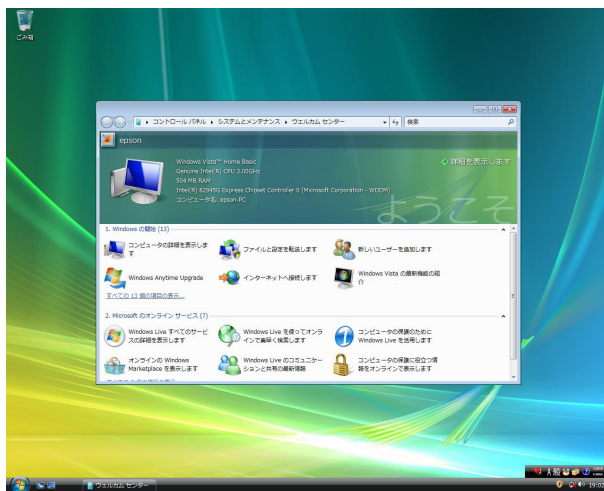
- 14** ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。

- 15** 「ありがとうございます」と表示されたら、[開始]をクリックします。設定が行われます。設定には約5分かかります。

- 16** 手順 10 でパスワードを設定した場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力して、を押します。

- 17** Windows Vistaのデスクトップ(下記の画面)が表示されたら、「Windows Vista リカバリDVD」を取り出します。


デスクトップの背景は、手順11で選択した背景が表示されます。



これでWindows Vistaのインストールは完了です。

18 手順9で領域変更を行った場合は、「未割り当ての領域」に領域（パーティション）を作成します。

領域（パーティション）の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが終了してから行ってもかまいません。

 p.191 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。

リカバリツールのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「setup.exeの実行」をダブルクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行]をクリックします。
- 4 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了すると、デスクトップ上に「リカバリツール」アイコンが表示されます。



リカバリツール

- 5 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出します。

▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。

本体ドライバのインストールで、インストールするドライバ類は次のとおりです。

- ビデオドライバ
- サウンドドライバ

上記以外のデバイスは、Windows標準ドライバで動作します。

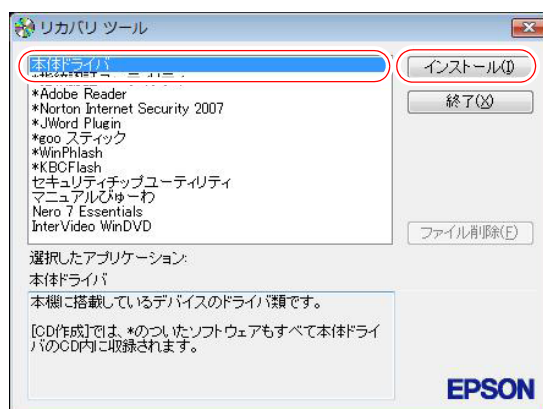
Windows標準ドライバとは、Windowsをインストールすると自動的にインストールされるドライバです。

インストール

インストールの手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して [インストール] をクリックします。

手順5の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

※表示される項目は、システム構成によって異なります。

- 5 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から [インストール] をクリックします。
- 6 「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり [OK] をクリックします。
各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには、約10分かかります。
- 7 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 8 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認して [PC再起動] をクリックします。

ドライバによっては、Windowsの再起動後に自動的にインストールされません。Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。

 参考

リカバリツールの【ファイル削除】の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で【ファイル削除】が黒字で表示される時は、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。【ファイル削除】をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

「Adobe Reader」のインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、【続行】をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、【インストール】をクリックします。
- 4** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して【インストール】をクリックします。
「このファイルを実行しますか？」と表示された場合は、【実行】をクリックします。
- 5** 「Adobe Reader…セットアップ」画面が表示されたら、【次へ】をクリックします。
- 6** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、【インストール】をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 7** 「セットアップ完了」と表示されたら、【完了】をクリックします。
- 8** 「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。
- 9** 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、【同意する】をクリックします。【同意しない】を選択すると、「Adobe Reader」は使用できません。
- 10** 「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。
内容を確認してください。
以上で、「Adobe Reader」のインストールは終了です。

「Adobe Reader」では、起動時に、新しい機能の追加などを自動的に行う「重要なアップデートの自動化」画面が表示されることがあります。この場合は、「Adobe Reader」を最新に保つために、[はい] をクリックします。「重要なアップデートの自動化」を行うには、インターネットに接続できる環境が必要です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。インストールを行ってください。

▶マニュアルびゅうわのインストール

本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。「マニュアルびゅうわ」のインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅうわ」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「マニュアルびゅうわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「インストール準備の完了」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 7** 「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、[完了] をクリックします。

これでマニュアルびゅうわのインストールは完了です。

▶ Nero 7 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。
- 6 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶ WinDVDのインストール

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。

WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5 「WinDVDをインストールする前に・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 6 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「JWordプラグイン…へようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 4** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して [インストール] をクリックします。
- 5** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）を使用していた場合は、セキュリティチップユーティリティをインストールします。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合：プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール


そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。


領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。

 p.192 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークの設定

ネットワークを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。


 p.78 「ネットワーク機能を使う」

Wakeup On LANの設定をしていた場合は、再度設定を行います。

 p.79 「Wakeup On LAN」

バックアップしたデータや設定の復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータや設定を元に戻します。

 p.182 「データのバックアップ」

- Internet Explorer、Windowsメールの設定の復元
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。


「トラブルが発生したら」	146
「困ったときに」	147
「システム診断ツールを使う」	171
「トラブル時に役立つ機能」	172
「警告メッセージが表示されたら」	177

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

- 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.147 「困ったときに」

- とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の
対処の流れ



サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

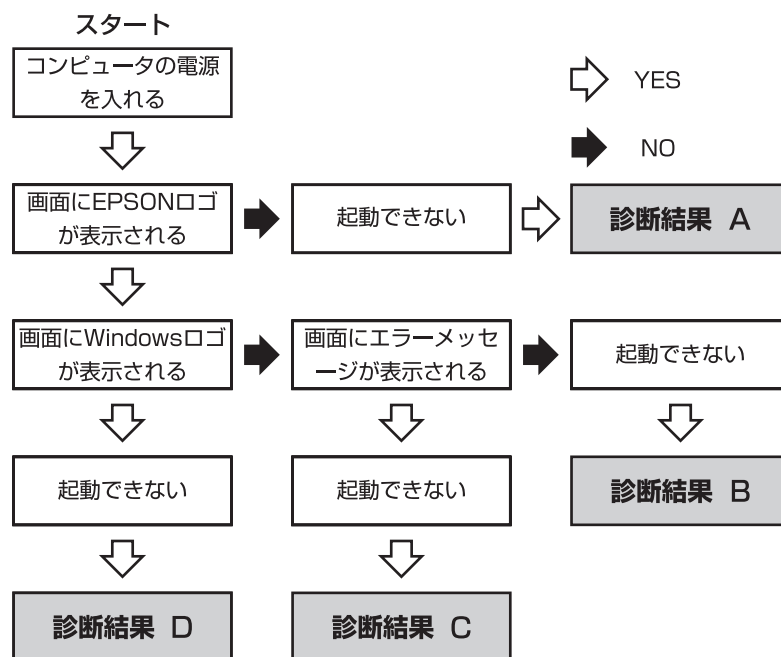
◆ コンピュータ本体（起動時）.....	p.148
● 起動.....	p.148
● そのほか.....	p.155
◆ コンピュータ本体.....	p.156
● 省電力機能.....	p.156
● セキュリティチップ（TPM）.....	p.157
● そのほか.....	p.157
◆ メモリ.....	p.158
● メモリ.....	p.158
◆ 記憶装置.....	p.159
● HDD.....	p.159
● 光ディスクドライブ.....	p.160
◆ 入力装置.....	p.163
● キーボード.....	p.163
● マウス.....	p.164
◆ 表示装置.....	p.164
● ディスプレイ.....	p.164
◆ サウンド.....	p.166
● スピーカ.....	p.166
◆ ソフトウェア.....	p.167
● ソフトウェア.....	p.167
● インストール.....	p.169
◆ ネットワーク、インターネット.....	p.170

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピュータ本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピュータ本体への電源供給を確認する

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピュータとACアダプタ、電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.198 「CMOS RAMの初期化」

(8) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B


次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す


本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.172 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

 p.172 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. EPSONと表示され、消えた直後に **F8** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
F8 を押すタイミングがずれて、「Boot Menu」画面が表示された場合は、項目から4th Masterを選択し、**Enter** を押した直後に **F8** を押し続けてください。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、**↵** を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.115 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」


(5) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.198 「CMOS RAMの初期化」

(6) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.129 「ソフトウェアの再インストールを行う」

診断結果 C

まず、 p.177 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください、対処を行ってください。

- 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

- 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

コンピュータの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピュータの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピュータの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する


大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピュータの電源を入れてみてください。

- 「DISK BOOT FAILURE」、 「Invalid system disk」、 「Missing Operating System」、 「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面で起動に使用するドライブの優先順位の設定で、HDD をRemovable Deviceより上に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

 p.112 「BIOS Setupユーティリティの操作」


(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露している可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。

 p.111 「BIOS Setupユーティリティの起動」


2. 「Main」メニュー画面で「Fourth Master」の表示を確認します。

HDDの型番が表示される場合、HDDは正常な状態です。続けて、下記(4) (5) の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。


(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.115 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.129 「ソフトウェアの再インストールを行う」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

接続しているUSB FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面で起動に使用するドライブの優先順位の設定で、HDD をRemovable Deviceより上に設定しておくことで、FDD やUSB 機器を接続した状態でも、コンピュータを起動できるようになります。



p.112 「BIOS Setupユーティリティの操作」

(2) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。



p.115 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」

(4) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.198 「CMOS RAMの初期化」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。



p.127 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果 D


次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。


(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。


 p.172 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。








1. [スタート] - 「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、 を押します。
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
※常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.172 「システムの復元」


(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. EPSONと表示され、消えた直後に  を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
 を押すタイミングがずれて、「Boot Menu」画面が表示された場合は、項目から4th Masterを選択し、 を押した直後に  を押し続けてください。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
3. 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、 または  を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、 を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.127 「ソフトウェアの再インストール」

起動時の不具合（そのほか）**現象**


起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

 p.116 「Passwordの設定」


- パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。

 p.56 「キーロック表示ランプ」

- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。ただし、HDDへのアクセス制限を設定している場合、パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。


 p.198 「CMOS RAMの初期化」

強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されるので、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。

 p.125 「BIOSの設定値」

- パスワード入力後に次のようなメッセージが表示された場合は、間違ったパスワードを入力しています。


Invalid Password! Press Any Key to Continue.

 を押して、再度パスワード入力画面を表示させて、正しいパスワードを入力してください。

現象

Windowsが起動せず、「システム回復オプション」画面が表示された。

確認と対処

- Windowsに不具合が起きると、HDD内に設定されている「Windows回復環境（Windows RE）」が自動的に起動します。「システム回復オプション」画面はWindows REの画面です。Windows REの機能を使用して、不具合を修復してください。Windows REの概要は、 p.174 「Windows回復環境（Windows RE）を使う」をご覧ください。



▶コンピュータ本体の不具合

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。
「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」－「Disabled」（無効）
 p.112 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- スリープ状態や、休止状態のときは、マウスやキーボードの操作では、省電力状態から復帰しません。電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
 p.97 「省電力状態からの復帰方法」
- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl**+**Alt**+**Delete**を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。

セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合

現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策


- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOSセットアップユーティリティ」の次の項目で行います。
「Boot」メニュー画面－「Security」－「Clear Security Chip」で [Enter] を選択します。「Setup Warning」画面が表示されたら、[YES] を選択します。「Setup Confirmation」画面が表示されたら [YES] を選択すると、情報が初期化され、コンピュータが再起動します。
- 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用することができなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化していたHDD内のデータも使用できなくなります（BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です）。
セキュリティチップの初期化を行う場合は、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）を参照し、お客様の責任において十分に注意して行ってください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。


確認と対処

- タスクマネージャで応答のないプログラムを終了させます。
 p.51 「ハングアップしたときは」
- 応答のないプログラムを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。その後、20秒程待つから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、電源コードを抜いて、1分程待つから差しなおし、再度電源を入れてください。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
 p.195 「リチウム電池の交換」

現象

BitLockerでドライブを暗号化した状態でBIOSのアップデートやBootの順番の変更を行ったところ、BitLockerのパスワード入力やパスワードを保存してあるUSBフラッシュの挿入を求められた。
(BitLockerは、Windows Vista UltimateおよびWindows Vista Enterpriseの機能です。)

確認と対処

- パスワードを入力するか、パスワードを保存してあるUSBフラッシュを挿入してください。BIOSのアップデートやBootの順番の変更を行うときは、BitLockerのドライブ暗号化を解除した状態で行ってください。

現象

終了処理をしても電源が切れない。

確認と対処

- Windows Vistaでは、[スタート] - [⏻] を押すと、本機は「スリープ状態」になります。電源を切りたい場合は、[スタート] - [▶] - 「シャットダウン」で電源を切ってください。
- 正しい処理を行っても電源が切れない場合は、電源スイッチを5秒以上押し続けてみてください。

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。BIOS Setupユーティリティを起動し、「Main」メニュー画面 - 「System Information」 - 「Installed Memory」で総メモリ容量を確認してください。



p.112 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量（初期値は32MB）を差し引いて表示されます。

- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

 p.104 「メモリの増設」

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。

これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」(0と1の2つの数字を用いる表記法)を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」(0~9の数字を用いる表記法)を使用していることによる違いです。


2進法で表記した1KB(キロバイト)は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。

 p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」

現象

Windowsの再インストールをしたら、HDDの空き容量が大幅に減ってしまった。

確認と対処




- p.134 「Windows Vistaのインストール」手順9で、Cドライブのフォーマットを行わずにWindowsのインストールをしてしまうと、以前のWindowsのデータがWindows.oldフォルダに保存されるため、HDDの空き容量が大幅に減ってしまいます。Windows.oldフォルダが不要な場合は、削除してください。Windows.oldフォルダは [スタート] - 「コンピュータ」 - 「Cドライブ」にあります。
通常は、手順どおりにCドライブをフォーマットしてからWindowsのインストールをしてください。

光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機のサウンドコネクタに接続してください。
 p.34 「スピーカの接続」
 p.73 「サウンド機能を使う」
- ボリュームコントロールが「ミュート」または「音量0」に設定されていないか確認してください。
 p.76 「音量の調節」

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか、確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合は、アクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがいないか、確認してください。

- 本機に添付されていたCD-ROM（データが収録されているCDなど）にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。






確認と対処




- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアへの書き込みができない。

確認と対処



- CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
 p.141 「Nero 7 Essentialsのインストール」
- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合は、『Neroユーザーガイド』をご覧ください。
 「マニュアルびゅーわ」 - 『Neroユーザーガイド』
- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。
 「マニュアルびゅーわ」 - 『光ディスクドライブPDFマニュアル』
- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行えるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
 p.65 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
 p.65 「Nero 7 Essentialsの使い方」

- 「InCD」で利用できるメディアはCD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
 p.65 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- 「InCD」でフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。「Nero 7 Essentials」で「ディスクの消去」を行ってください。
 p.65 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- Windowsが省電力状態になると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行する設定を無効にしてください。
 p.95 「省電力状態に移行する方法」
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- メディアの残量があるか、確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処

- CD-ROMドライブでは、DVDの再生はできません。
- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には、「WinDVD」が購入時にインストールされています。
- DVD VIDEO再生に関する不具合は、WinDVDのヘルプを参照してください。
- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。
 p.70 「表示に関する各種設定」
 p.72 「リフレッシュレートの設定」

▶入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.56 「キーロック表示ランプ」

現象


どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。PS/2 キーボードの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.33 「キーボードの接続」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。このような場合には、タスクマネージャでプログラムを終了してください。


 p.52 「アプリケーションの強制終了」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。




 p.54 「キーボードを使う」

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。


確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認してください。PS/2マウスの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。
 p.32 「マウスの接続」
- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。
 p.51 「再起動」
 p.51 「ハングアップしたときは」

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

- マウスのクリーニングを行ってください。
 p.180 「マウスのお手入れ」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。


ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処



- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。
 p.31 「ディスプレイの接続」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ピープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。


確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。電源ランプが点滅している場合は、スリープ状態になっています。この場合は、電源スイッチを押すと、元に戻ります。
 p.97 「省電力状態からの復帰方法」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。
 p.31 「ディスプレイの接続」
- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処


- リフレッシュレートを変更してみてください。
 p.72 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.172 「セーフモードでの起動」

▶サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。


スピーカの不具合

現象


音が鳴らない。

確認と対処

- 本機にスピーカは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカを本機のサウンドコネクタに接続してください。オーディオケーブルが複数ある場合は、スピーカの種類の設定を行ってください。

 p.73 「サウンド機能を使う」

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「音量0」に設定されていないか確認してください。

 p.73 「サウンド機能を使う」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- ハングアップした場合は、応答のないプログラムを終了してからコンピュータを再起動してください。



p.51 「ハングアップしたときは」

現象

アプリケーションやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- アプリケーションやプログラムがウイルスに感染している可能性があります。セキュリティソフトウェアでウイルスの検索・駆除を行ってください。
- 安全なアプリケーションを実行して「データ実行防止」画面が表示される場合は、アプリケーションの製造元へお問い合わせください。
- 問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。
- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブまたはディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerを使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

- 購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時、情報バーに警告が表示されたら、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

WindowsメールでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。

Windowsメールの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ
「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。



確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。
詳細はソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処


- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。
 p.140 「マニュアルびゅーわのインストール」
- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。
ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。
 p.185 「電子マニュアルのダウンロード」

インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書の手順は、 p.18 「本製品の仕様とカスタマイズ」で記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows VistaリカバリDVDを入れて再起動をし、どれかキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。



p.112 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。





システム診断ツールを使う

ここでは「システム診断ツール」について説明します。

システム診断ツールとは、本機の調子が悪いときに、不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを診断するためのツールです。本機に添付の「リカバリツールCD」に収録されています。

▶システム診断を実行する

システム診断の実行方法は、次のとおりです。

- 1** リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
Windowsが起動できないときは、 +  +  を押して、コンピュータを再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

本機が起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 EPSONと表示され、消えた直後に **F8** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
F8 を押すタイミングがずれて、「Boot Menu」画面が表示された場合は、項目から4th Masterを選択し、**Enter** を押した直後に **F8** を押し続けてください。
Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

Windows Vistaでは、本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って本機を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。

- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「推奨される復元」を選択し、「次へ」をクリックします。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択して「次へ」をクリックし、ポイントを選択して「次へ」をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、「完了」をクリックします。
- 5** 「システムの復元を開始すると…」と表示されたら、「はい」をクリックします。
コンピュータが再起動します。
- 6** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、「閉じる」をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

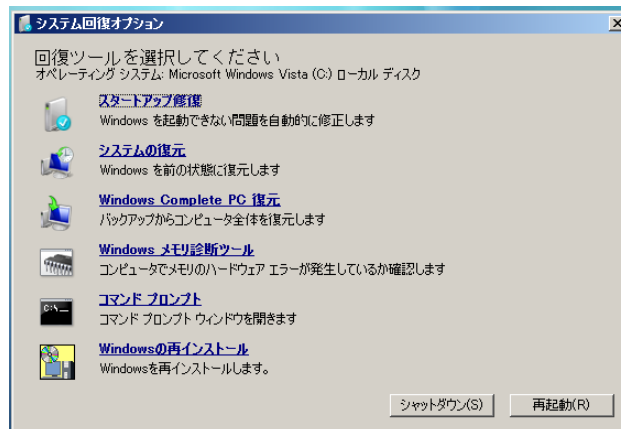
- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。
- 3** 「システムの復元」画面が表示されたら、「システムの保護」をクリックします。
- 4** 「システムのプロパティ」画面が表示されたら、復元ポイントを作るドライブ（ローカルディスク）にチェックを付けて、「作成」をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、説明を入力し、「作成」をクリックします。
- 6** 「復元ポイントは正常に作成されました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。
以上で復元ポイントの作成は完了です。

▶Windows回復環境 (Windows RE) を使う

本機のHDD内の「消去禁止領域」には、「Windows回復環境 (Windows RE)」が設定されています。Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、不具合に対する対処を行うことができます。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



- **スタートアップ修復**

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行ってみてください。

- **システムの復元**

コンピュータの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。

- **Windows Complete PC復元**

バックアップしてあったデータを使用してコンピュータ全体を復元します。Windows Vista Home Premium、Windows Vista Home Basicには、Windows Complete PC復元のためのバックアップ機能はありません。

- **Windowsメモリ診断ツール**

メモリにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。

- **コマンドプロンプト**

コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら

Windowsに不具合が起きると、HDD内のWindows REが自動的に起動し、「システム回復オプション」画面が表示されます。

「システム回復オプション」画面が表示されたら、次の手順でWindows REの項目を表示させ、対処を行います。

- 1 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 2 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 3 Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

HDD内のWindows REを手動で起動する

HDD内のWindows REは、手動で起動することもできます。


手動で起動する方法は、次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 「EPSON」と表示され、消えた直後に **F8** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
F8 を押すタイミングがずれて、Windowsが起動してしまった場合は、再起動してからやりなおしてください。
- 3 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピュータの修復」を選択し、**↵** を押します。
- 4 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 6 Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

DVDのWindows REを使用する

Windows REは本機に添付の「Windows VistaリカバリDVD」にも収録されています。HDD内に設定されているWindows REを誤って消去してしまった場合などに使用してください。

DVDに収録されているWindows REの起動方法は、次のとおりです。

- 1** コンピュータの電源を入れ、Windowsが起動したら、「Windows VistaリカバリDVD」を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら  をクリックし、画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - 「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindows Vistaが起動してしまいます。Windows Vistaが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、キーボードレイアウトが「日本語」になっていることを確認し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「修復するオペレーティングシステムを選択し…」と表示されたら、「Microsoft Windows Vista」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
- 6** Windows REの項目が表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処法
CPU temperature too high	CPU が高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU FAN rotating lower than 500rpm!!!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから再起動してください。
CPU over voltage error	CPU の電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	180
「データのバックアップ」	182
「バックアップCDの作成」	183
「電子マニュアルのダウンロード」	185
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	186
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	187
「リチウム電池の交換」	195
「CMOS RAMの初期化」	198
「HDDのデータを消去する」	200
「機能仕様一覧」	202

お手入れ

▶本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

▶マウスのお手入れ

ここでは、ホイール付PS/2マウスについて説明します。

購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルでお手入れの方法をご確認ください。

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたら、クリーニングを行ってください。



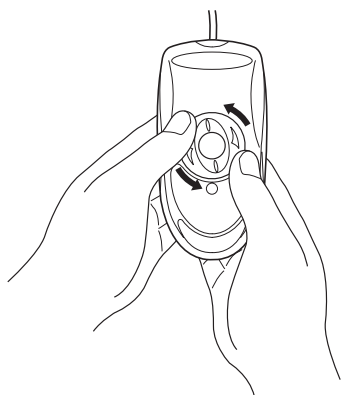
- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングは、本機の電源を切ったあと、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1 マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2 マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。

マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。

クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。

4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。**5** ボールフレームを元どおりに取り付けます。

右回りに回してマウス本体に装着します。



制限

マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

自分で作成して保存したファイルやInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」の見方

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「正しく安全に使う！」項目の「Windowsシステム」



<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

バックアップCDの作成

ここでは、リカバリツールを使用して、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データをCDメディアにバックアップ（コピー）する方法について説明します。

作成したバックアップCDを使用すると、CDから本体ドライバやソフトウェアをインストールできます。

バックアップCDは、書き込み機能のある光ディスクドライブでのみ作成できません。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。



- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。
- 4 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。

バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順5の画面が表示されるまでに数分かかります。



<イメージ>

項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

- 5 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDから本体ドライバやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

ここでは、本体ドライバのバックアップCDからインストールする手順を例に説明します。

- 1 作成した本体ドライバのバックアップCDを光ディスクドライブにセットします。**
- 2 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exeの実行」をクリックします。**
クリックする記載内容は、「Setup.exeの実行」など、作成したバックアップCDによって異なります。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] – 「コンピュータ」 – 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「許可」をクリックします。**
ソフトウェアによっては、「続行」をクリックします。
- 4 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「インストール」をクリックします。**
本体ドライバ以外のソフトウェアをインストールする場合は、ソフトウェア名をクリックします。

ここで表示される画面は、作成したバックアップCDによって異なります。
以降の手順は、p.129「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくした場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを削除した場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



製造番号を入力して検索

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見ることができません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機では、セキュリティチップ (TPM) のセキュリティ機能を使用することにより、本機に保存されているデータや電子メールに対し、高度な暗号化をすることができます。

セキュリティ機能を使用する際は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

セキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』(別冊) をご覧ください。



セキュリティ機能を使用するには、いくつかのパスワードの設定を行ってください。パスワードを忘れると、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

セキュリティ機能を使い始めるまでの準備

セキュリティ機能を使用するための準備の前に、必ず、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

セキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定を変更後、「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。


● BIOSの設定

セキュリティ機能を使用するには、「BIOS Setupユーティリティ」で次の項目の設定を変更します。

「Boot」メニュー画面 - 「Security」 - 「Security Chip」

セキュリティ機能	Security Chip
使用しない場合	Disabled (無効)
使用する場合	Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」に設定されています。

 p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機にセキュリティチップの設定を行うための「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。セキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行います。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



参考

消去禁止領域

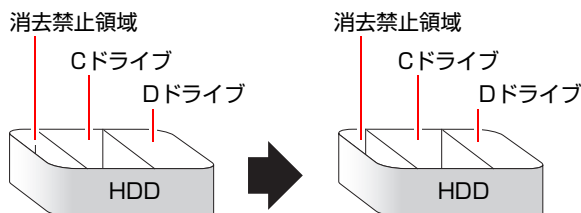
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどを再インストールするためのデータや、「Windows回復環境（Windows RE）」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

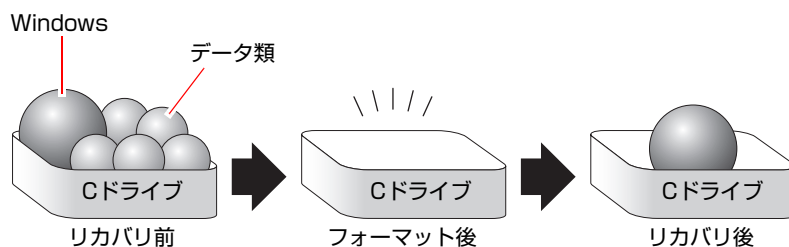
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

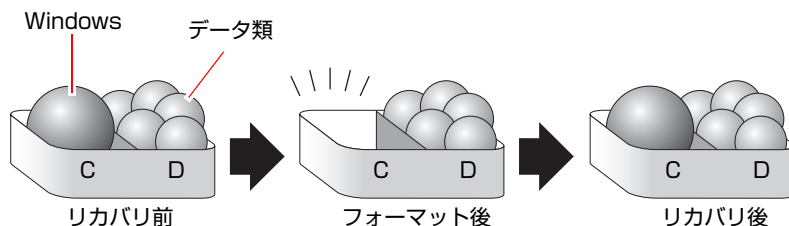
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやアプリケーションはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。



制限


HDD領域を分割したHDDのリカバリをする場合は、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ

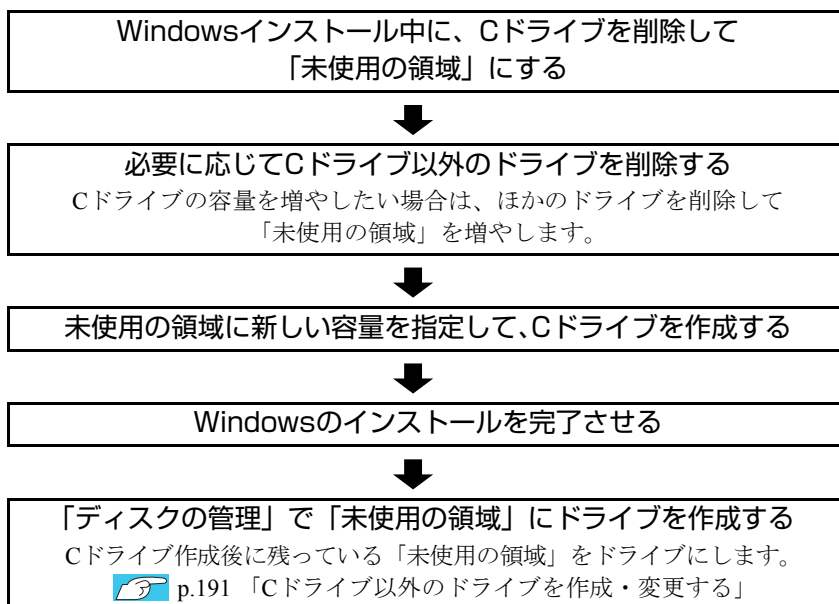
Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.191 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。




ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。



Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.134 「Windows Vistaのインストール」の手順9を次の手順に読み替えて、Windowsのインストールを行ってください。

- 1** 「ドライブオプション（詳細）」をクリックします。
- 2** 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で「削除」をクリックします。
- 3** 「このパーティションを削除すると…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
削除したパーティション（Cドライブ）が「未割り当て領域」となります。
- 4** 次のとおり作業を続けます。
<Cドライブを分割したい場合>
(1) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。
<Cドライブの容量を増やしたい場合>
(1) そのほかのパーティションもCドライブと同様に削除し、「ディスク0未割り当て領域」を増やします。
(2) 「ディスク0未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。
手順5に進みます。
- 5** Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。
Cドライブには、最低でも40GB（40000MB）を割り当てることをおすすめします。
- 6** 「ディスク0パーティション2」（Cドライブ）が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
Windows Vistaのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。
続いて  p.134 「Windows Vistaのインストール」手順10に進みます。
手順10の画面が表示されるまでキーボードやマウスは操作しないでください。


▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）を作成・変更する方法について説明します。

次のような場合をご覧ください。

- Dドライブ以降のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成された「未使用の領域」をドライブにして使用する場合

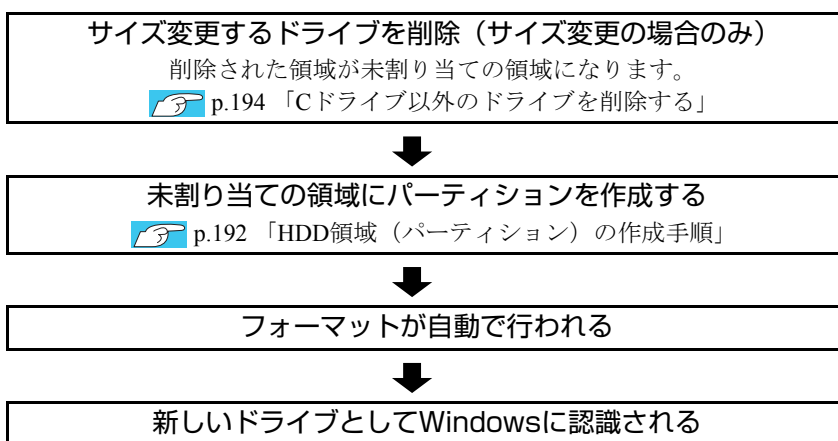
Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、

 p.188 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ


ドライブの作成・変更は、Windowsの「ディスクの管理」で行います。

ドライブの作成の流れは次のとおりです。



HDD内の「未割り当ての領域」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

ドライブの作成方法は、 p.192 「HDD領域（パーティション）の作成手順」をご覧ください。

ドライブの削除方法は、 p.194 「Cドライブ以外のドライブを削除する」をご覧ください。

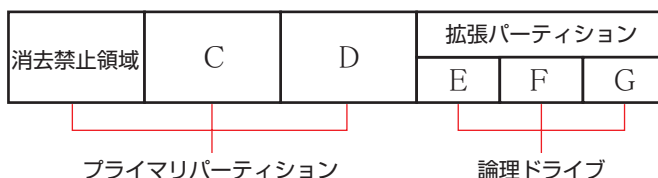
参考

パーティションとは

Windowsの「ディスクの管理」では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。

- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
- 消去禁止領域はパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>

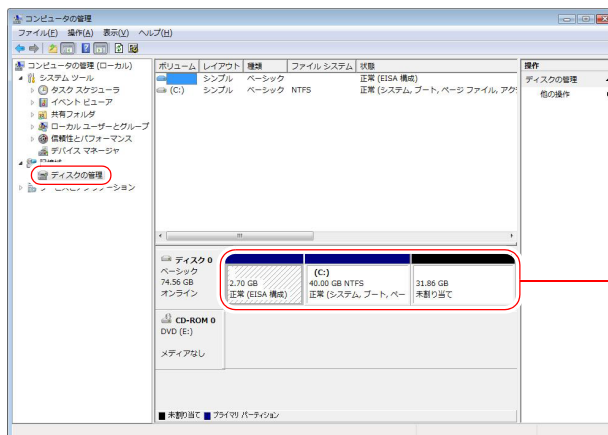


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域（パーティション）を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。

HDD領域の状態が表示されます。



HDD領域の状態

<イメージ>

- 4** パーティションを作成したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 5** 「新しいシンプルボリュームウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6** 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 7** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 8** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 9** 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、HDD領域（パーティション）の作成は完了です。

▶Cドライブ以外のドライブを削除する

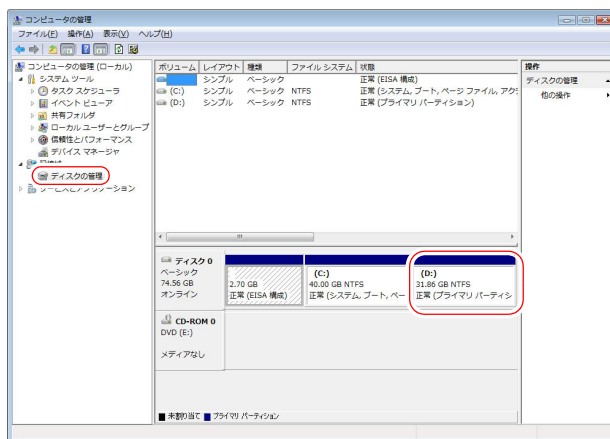
Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除してから、作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。
- 3 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左の「ディスクの管理」をクリックします。


HDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 4 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 5 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。

パーティションを削除すると、「未割り当て」になります。「未割り当て」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.192 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032

リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、ACアダプタからの電源供給が全くない場合、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した値が何もしないのに変わってしまいます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。



- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- リチウム電池の交換を行うと、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
- 本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。


リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

1 コンピュータ本体とコンピュータに接続している周辺機器の電源を切ります。

作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。

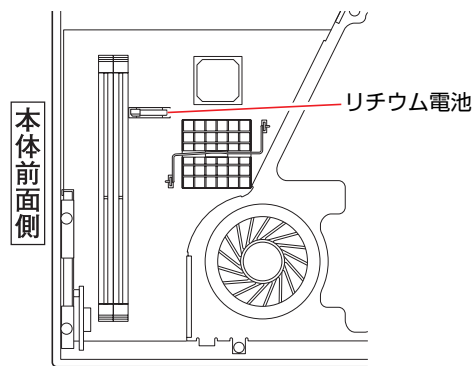
2 コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。

3 本体カバーを取り外します。

 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」

4 リチウム電池の位置を確認します。

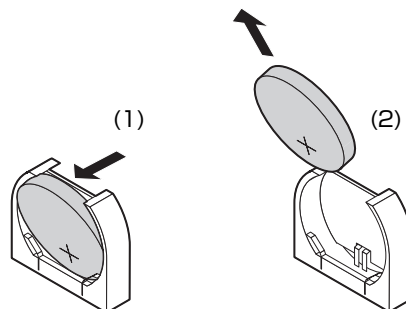
リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。



5 リチウム電池を抜きます。

(1) 電池ホルダ側から電池の上部を押します。

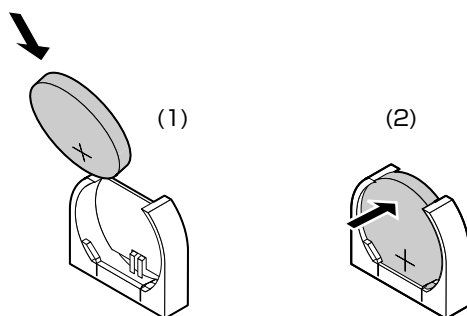
(2) 電池が外れたら、上へ引き抜きます。




6 新しいリチウム電池を取り付けます。


刻印面（+側）が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

- (1) 電池ホルダに電池の下部を差し込みます。
- (2) 矢印の方向へ押し込んでしっかりと取り付けます。


**7** 本体カバーを取り付けます。

 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」

8 コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。**9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。**10** コンピュータの電源を入れます。**11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、**Delete** を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」

12 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。

 p.115 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」

13 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。**14** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。しかし「BIOS Setupユーティリティ」で設定したパスワードを忘れていたり、BIOSの設定を誤ったりして、本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- コンセントに電源プラグを接続したままで作業をしないでください。感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。









- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.125 「BIOSの設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.116 「Passwordの設定」 - 「アクセス制限の設定」 - 「HDDへのアクセス制限」
- 本機の電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電気が流れています。作業を始める前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。

- 1** コンピュータ本体とコンピュータに接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。

- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** リチウム電池を取り外します。
 p.195 「リチウム電池の交換」手順5
- 5** そのまま5秒以上、放置します。
- 6** リチウム電池を取り付けます。
 p.195 「リチウム電池の交換」手順6
- 7** 本体カバーを取り付けます。
 p.102 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 8** コンピュータを元のように縦置きまたは横置きにします。
- 9** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。
- 10** コンピュータの電源を入れます。
- 11** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS checksum error - Defaults loaded」と表示されたら、**[Delete]**を押して、「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。
 p.111 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 12** 「Exit」メニュー画面－「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.115 「Load Optimized Defaults（初期値に戻す）」
- 13** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Save & Exit Setup」を選択して「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

HDDのデータを消去する

リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。コンピュータを廃棄する場合がございます。










消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元のUltra-X社は責任を負いません。HDDのデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▶] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading... Press any key to run PC TEST.」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 を押して「HD Erase」を選択し、 を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 を押して「Full Erase」を選択し、 を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。

9 「Erase of HDD :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピュータの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルCore Soloプロセッサ、インテルCore 2 Duoプロセッサ、 インテルCeleron Mプロセッサ
	ソケット	Socket 479
チップセット		ATI Radeon [®] Xpress 200M (RC410ME+SB600)
BIOS		Award BIOS
セキュリティ ティチップ (TPM)	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT
メインメモリ		PC2-4200 (DDR2-533 SDRAM) を使用して最大2GBまで搭載可能
ビデオ	メモリ	メインメモリ512MB搭載時：メインメモリより最大128MBを使用 メインメモリ1GB搭載時：メインメモリより最大288MBを使用 メインメモリ2GB搭載時：メインメモリより最大800MBを使用
	コントローラ	チップセット内蔵
サウンドコントローラ		SB600 (SB) ハイ・デフィニション・オーディオ対応 ATI製
記憶装置	HDD	1台内蔵 (S-ATA150対応)
	光ディスクドライブ	1台内蔵 (種類は購入時の選択による)
インタ フェース	USB	6：USB2.0 (前面×2、背面×4)
	LAN	1：RJ-45 100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	前面側：ヘッドフォン出力コネクタ×1 背面側：ライン入力コネクタ×1、フロントスピーカ/ライン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1、センタースピーカ/サブウーファ出力コネクタ×1、リアスピーカ出力コネクタ×1、サイドスピーカ出力コネクタ×1、
	ディスプレイ	1：アナログRGBミニD-SUB15ピン
	キーボード	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
キーボード		日本語対応106 PS/2コンパクトキーボード
マウス		ホイール付PS/2マウス
カレンダー時計内蔵		内蔵電池によりバックアップ
電源	ACアダプタ	入力AC100V～240V±10%*1、1.5A (50/60Hz)、 出力12V、7.5A、90W、質量約650g (含電源コード)
温湿度条件		温度：10～35℃ 湿度：20～80% (ただし、結露しないこと)
外形寸法 (縦置き時)		本体：約75 (幅) ×185 (奥行) ×195 (高さ) mm
質量		本体：約2.3kg 最小構成時
消費電力		110W (最大) /3.0W (スリープ状態) /2.4W (電源オフ時)

*1 標準添付されている電源コードはAC100V用 (日本仕様) です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合には保証対象外となります。

索引

数字

7.1ch..... 73

A

ACアダプタコネクタ 26

ACアダプタの接続 36

Administrator(管理者) 40

Adobe Reader..... 22

 インストール 139

Advancedメニュー画面 120

B

BIOS 110

 Password設定 116

BIOS Setupユーティリティ 111

 起動 111

 終了 118

 操作 112

BIOSの設定値 125

Bootメニュー画面 123

C

Caps Lock 56

CDメディア

 読み込み・再生 63

CMOS RAMの初期化 198

COAラベル 21

Cドライブ 58

 分割・変更する 188, 190

Cドライブ以外のドライブ

 削除する 194

 作成・変更する 191

Cドライブ分割

 デメリット 188

 メリット 188

D

DVD VIDEO再生ソフト 64

DVDメディア

 読み込み・再生 63

E

Exit Without Saving 118

Exitメニュー画面 125

F

Fnキー 54

G

gooスティック 22, 84

 インストール 142

H

HDD 58

 購入時の状態 58

 消去禁止領域 59

 不具合 159

HDD設定変更サービス 59

HDDのデータ消去 200

HDD領域

 分割・変更・作成 187

I

InCD 66

J

Java2 Runtime Environment 22

JWord 84

JWord Plugin 22

 インストール 142

L		U	
LAN機能	78	USB機器	68
LANケーブル	35, 78	接続と取り外し	68
LANコネクタ	26, 35	使う	68
		USBコネクタ	25, 26
M		V	
Mainメニュー画面	119	VGAコネクタ	26
MS-IME.....	55		
		W	
N		Wakeup On LAN	79
Nero 7 Essentials	23	Windows	22
インストール	141	セットアップ	38
使い方	65	Windows Defender	89
Norton Internet Security 90日版	23	Windows Media Player.....	77
Num Lock.....	56	Windows RE	59, 174
		Windows Update.....	85
O		Windows Vista	
OS.....	15	インストール	133, 134
		セットアップ	37, 40, 41
P		Windows VistaリカバリDVD	129
Passwordの設定	116	Windows回復環境	46, 174
PCお役立ち情報	45	Windowsの修復	46
Power メニュー画面	122	Windowsメール	82
		初期設定	83
S		WinDVD	23, 64
S-ATA HDD	58	インストール	141
Save & Exit Setup	118		
Scroll Lock	56	あ	
Serial ATA	58	アイコン	16
		アクセスランプ	25
T		アップグレードサービス	100
TPM.....	186	アップデート	
不具合	157	Adobe Reader.....	140
		アプリケーションの強制終了	52

い

インストール	
Adobe Reader.....	139
gooスティック	142
JWord Plugin.....	142
Nero 7 Essentials.....	141
Windows Vista.....	133
WinDVD	141
セキュリティソフトウェア	43, 140
セキュリティチップユーティリティ	143, 186
本体ドライバ	137
マニュアルびゅうわ	140
リカバリツール	137
インストール時の不具合	169
インターネット	
接続	80
インターネットエクスプローラ	82
インフォメーションメニュー	22, 44

お

オーディオ機器の接続	73
お手入れ	180
オペレーティングシステム	15
音量の調節	44, 76

か

外部オーディオ機器	73
書き込み	
光ディスクメディア	64
各部の名称と働き	25
カスタマイズ	18
かなキーロック	55
かな入力	55
管理者	48
管理者 (Administrator)	40, 131

き

キーボード	54
コネクタ	26
接続	33
不具合	163
キーロック表示ランプ	56
記憶装置	
不具合	159
起動時の不具合	148
起動順位の変更	123
機能キー	54
機能仕様一覧	202
休止状態	93, 96
強制終了	
Windows.....	52
アプリケーション	52
記録メディア	8

く

クリック	38, 57
------------	--------

け

警告メッセージ	177
検索	
JWord.....	84

こ

コピーコントロールCD	60
困ったときに	146
コンピュータウイルス	82, 87
コンピュータ本体の不具合	148, 156
起動時	148
コンピュータ名	40

さ

再インストール	128
必要なメディア	129
再起動	51
再生	
CDメディア	63
DVDメディア	63
音声	77
サイドスピーカ出力コネクタ	26, 74
サウンド機能	73
サウンドコネクタ	73, 74
設定	76
サウンドドライバ	22
サウンドユーティリティ	75
サウンドレコーダー	77
サブウーファ出力コネクタ	26, 74
サポート情報検索	45
サポート・サービスのご案内	21, 146

し

システム診断ツール	
HDDのデータ消去	200
システム診断の実行	171
システムの拡張	99
システムの復元	46, 172
シャットダウン	49
終了	49
電源を切る	50
仕様	202
消去禁止領域	59, 187
使用できるマイク	74
省電力機能	46, 91
不具合	156
省電力状態	
移行しない設定	95
移行方法	95

復帰方法	97
------------	----

情報バー	84
使用・保管時の注意	7
初期設定ツール	43
初期値に戻す	115

す

数値キー	54
スクロール	57
スタートボタン	16
スタートメニュー	16
スピーカ	73
接続	34
不具合	166
スピードステップ機能	98
スリープ状態	49, 93

せ

制御キー	54
製造銘板	21
セーフモード	70, 172
セキュリティ機能	186
セキュリティソフトウェア	87
インストール	140
セキュリティ対策	46
セキュリティチップユーティリティ	23
インストール	143, 186
セキュリティチップ(TPM)	186
不具合	157
セキュリティロックスロット	26, 98
接続と取り外し	
USB機器	68
設定値を元に戻すには	115
セットアップ	
Windows	38
Windows Vista	40

セットアップ完了後の作業	43	電源の入れ方	39
センタースピーカ	74	電源プラン	91
前面	25	電源ランプ	25
そ		電源を切る	49
増設		シャットダウン	50
メモリ	104	電池ホルダ	196
増設・交換後の作業		添付されているソフトウェア	22
メモリ	107	と	
ソフトウェアの不具合	167	ドライブイジェクトボタン	25
た		ドラッグアンドドロップ	57
タスクバー	16	とらぶる解決ナビ	146
タブ	16	トラブルが解決しなかったら	46
ダブルクリック	57	トラブルが発生したら	146
ち		取り外しアイコン	69
直接入力モード	55	に	
つ		日本語入力モード	55
通知領域	16	日本語を入力する	55
通風孔	25	入力装置	
て		不具合	163
ディスクの管理	144	入力モードの切り替え	55
ディスプレイ		ね	
VGAコネクタ	26, 31	ネットワーク	78
接続	31	接続	35
不具合	164	ネットワーク機能を使う	78
ディスプレイの設定	72	は	
データの暗号化	186	パーティション	192
デスクトップ画面	16	ハードディスクドライブ(HDD)	58
デメリット		不具合	159
Cドライブ分割	188	領域の分割・変更・作成	187
電源スイッチ	25	背面	26
電源設定	91	パスワード	40, 116
		設定・変更	117

- バックアップ 58, 134
 バックアップCD
 インストール 184
 作成 183
 ハングアップ 51
- ひ**
- 光ディスクドライブ 25
 イジェクトボタン 25
 使う 60
 不具合 160
 光ディスクメディア
 書き込み 64
 読み込み・再生 63
 ビデオドライバ 22
 ビデオメモリ 107
 表示装置 72
 不具合 164
 標準ユーザー 48
- ふ**
- ファイアウォール 88
 ファイル削除
 リカバリツール 139
 フィッシング詐欺検出機能 90
 フォルダメニュー 47
 不具合
 インストール時 169
 コンピュータ本体 148, 156
 サウンドスピーカ 166
 省電力機能 156
 セキュリティチップ(TPM) 157
 ソフトウェア 167
 光ディスクドライブ 160
 マウス 164
 メモリ 158
- 復元ポイントを手動で作成する 46, 173
 フロントスピーカ 26, 74
- へ**
- ヘッドフォン出力コネクタ 25, 73
- ほ**
- ボタン 16
 ボリューム 76
 本機でできること 24
 本機の終了方法 49
 本体カバーの着脱 102
 本体ドライバのインストール 137
- ま**
- マイク入力コネクタ 26, 74
 マウス 9, 57
 お手入れ 180
 コネクタ 26
 操作 57
 使い方 38
 不具合 164
 マウスポインタ 38
 マニュアルダウンロード 185
 マニュアルびゅうわ 22, 45
 インストール 140
- み**
- 右クリック 57
- め**
- メモリ
 仕様 104
 スロット 104
 増設 104
 増設・交換後の作業 107

取り付け・取り外し	105	ライティングソフト	64
不具合	158	ライン出力コネクタ	26, 74
メモリスロット	100	ライン入力コネクタ	26, 74
メリット		ラッチ	26
Cドライブ分割	188		
も		り	
文字キー	54	リアスピーカ出力コネクタ	26, 74
文字を入力するには	55	リカバリ	128
ゆ		リカバリDVD	22, 129
ユーザーアカウント	47	リカバリツール	22
ユーザーアカウント制御画面	48	インストール	137
ユーザーサポートページ	45	バックアップCDの作成	183
ユーザー名	40	ファイル削除	139
よ		リカバリツールCD	22, 129
読み込み・再生		リチウム電池の交換	195
CDメディア	63	リフレッシュレートの設定	72
DVDメディア	63	リモートブート	79
ら		領域の作成	144
ライセンス認証	42	ろ	
		ローマ字入力	55
		録音	
		音声	77

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保障期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

PCリサイクルマークについて



PCリサイクルマーク付きの当社製品は、当社が無償で回収、再資源化いたします。詳細は下記ホームページをご参照ください。

<http://www.epson.jp/ecology/>

著作権保護法

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を越えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。が、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Media、ActiveX、Internet Explorer、BitLockerは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel、インテル、Intelロゴ、Celeron、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityおよびLiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



epsondirect.jp



大豆油インキを
使用しています。



このユーザーズマニュアルは
古紙配合率100%再生紙を使用しています。

